

平成28年度 地域活性化に向けた協働取組の加速化事業

筑北村東条地区における里山交流促進計画

業務成果報告書

平成29年3月

株式会社柳沢林業

目 次

1. 業務概要	
(1) 事業の目的	1
(2) 事業の内容	1
(3) 事業実施期間	4
2. 実施体制	
(1) 経緯	6
(2) 目的	7
(3) 構成及びその役割	8
3. 事業実施の概要	
(1) 協働定例会の設置・開催	10
(2) 協働取組カレンダーの作成	11
(3) 協働取組カレンダーに基づく協働取組の実施	11
(4) 地方支援事務局への月次報告	24
(5) 3カ年の中期計画等の策定	24
(6) 連絡会、合同報告会への参加	24
4. 事業の評価・分析	26
5. 総括	
(1) 協働を加速化した手法とその成果	30
(2) 課題	33
□資料	
(資料-1) 協働取組カレンダー	36
(資料-2) 月次報告	38
(資料-3) 中期計画（簡易版）	46
(資料-4) 中期計画（詳細版）	48
(資料-5) 会議・協議 議事録	59
(資料-6) 第6回、第7回定例会資料	81
(資料-7) 里山フォーラムアンケート調査	83

1. 業務概要

(1) 事業の目的

地域における課題解決や地域活性化の上で重要な役割を果たしている地域の各主体の活動を支援するため、中間支援組織の体制強化や地域における協力・連携体制の整備等を促進することが重要である。

このため、民間団体、企業、自治体等の異なる主体による協働取組を実証するとともに、中部環境パートナーシップオフィスが設置する「地方支援事務局」の助言を受けつつ、協働取組の過程等を明らかにし、協働取組を加速化していく上での様々な手法や留意事項等を、協働取組を行おうとする者の参考資料として共有することを目的とする。

(2) 事業の内容

筑北村の里山は、かつて農産物の生産や薪の調達など地域住民の重要な生活源であったが、戦後過疎化・高齢化に伴い耕作放棄が進み、近年は山に行く人はほとんど途絶えている。また、耕作放棄に伴い植林がなされたが、植生を考慮しておらず山は荒廃した状態である。

今事業では、その対策として、関係するステークホルダーの協働による「林業と福祉との連携」を軸として、地域の里山保全が継続的に実施される体制構築を目的とした。

この目的を達するため、以下の事業を実施し、福祉分野との連携による里山整備の取組が地域における里山保全体制の構築に資するものであることの検討を行う。

なお、業務の実施に当たっては、地方支援事務局と連携を密にしながら実施した。

①協働定例会の設置・開催

本事業の目的及び目標の共有を行うための協働定例会を設置し、本事業に関わる協働取組関係者（以下、「協働関係者」という。）の役割及び取組の具体的実施方法の協議等を行った。協働定例会は8回開催し、東条高島及び周辺里山森林整備協議会、特定非営利活動法人里山保全再生ネットワーク、株式会社信州ちくほく、親子はねやすめ、Re Forest Camp、筑北村役場が参画した。この全てに地域住民及び医療福祉関係団体の参加を得ることができた。

なお、協働定例会の開催に当たっては、協働関係者が相互理解を行う場であることを意識し、本事業の目標である継続的な里山保全体制の構築に向けた検討・議論が行われるよう努めた。

②協働取組カレンダーの作成

事業開始後速やかに、中部地方環境事務所、地方支援事務局、協働関係者等が、目的、

目標及び課題解決のための行動計画を共有するため、別途地方支援事務局が示す様式により協働取組カレンダーを作成した。

③協働取組カレンダーに基づく協働取組の実施

ア 里山の環境整備

里山の将来像の検討及び心身障害児受入れに向けた空間の整備を目的として、以下の取組を実施した。取組の実施に当たっては、協働定例会における議論を踏まえるほか、地域資源や地域文化の活用を図るため地域住民の協力・参画を得て行った。

- ・ 里山の現況調査

植生に関する専門家（大学教授1名（1回）、林業家1名（4回））による植生調査を含めた、里山の現況調査を行った。

- ・ 心身障害児受入れに向けた空間の整備

簡易路網の整備を、地域住民の参画を得て、森林療法的な観点も踏まえ実施（1回）するとともに、バイオトイレ・水回り環境の調査を行い、必要な空間整備について検討した。

なお、これら空間整備は、里山の空間利用に関する専門家（大学教授1名（1回））の参加・助言を受け、行った。

イ 心身障害児向け木製遊具・木工製品の試作及び試用状況調査

間伐材の利活用の可能性の検討のため、間伐材を用いた心身障害児向け木製遊具・木工製品として、木馬を試作した（1種類）。試作品については、医療・社会福祉施設（2施設＝ほわわ吾妻橋、あおぞら nobi）に出向き、取組について理解と協力を得た上で施設において試用させ、施設関係者からの試用状況調査を実施した。対象施設及び調査の内容については、心身障害児医療の専門家（大学教授級1名、1回）の参加及び協働定例会における議論を踏まえ、調査結果についても協働定例会において共有し、今後の製作における判断資料として活用できるものとした。

なお、試用状況調査については、実施前に内容について中部地方環境事務所担当官（以下「担当官」という。）及び地方支援事務局に共有した。

ウ 里山フォーラムの開催

本事業についての情報発信及び地域住民等の理解の促進を図るため、「里山フォーラム～みんなで創り守ろう、地域の里山～」を平成28年10月に1回開催した。

筑北村内にて、午前は、林内散策及び森林療法の体験を行い、地域の方の協力による昼食提供を経て、午後は、事業紹介、家族レスパイト旅行等紹介、森林講話、森林療法フォーラムを実施した。講師として、大学教授1名、林業家1名を招聘し、地域住民、医療・福祉関係者並びに心身障害児及びその家族等計50名が参加した。

フォーラムには、協働関係者も含む参加者の交流・相互理解が深まる企画を盛り込み、内容については協働定例会での議論を踏まえた上で、実施した。

なお、里山フォーラムの企画内容については、実施前に担当官及び地方支援事務局に共有した。

エ 周知広報活動

家族レスパイト旅行を行う団体のイベントに1回参画し、本事業について周知し、理解の促進を図った。

また、本事業の目的、取組等の周知広報のためのリーフレット（A4 フルカラー300部）を作成した。

④地方支援事務局への月次報告等

本事業実施期間中毎月、当月の事業実施内容、新たに認識された課題等について、別途地方支援事務局が示す様式に従い、地方支援事務局に翌月5日までに報告するとともに、地方支援事務局からヒアリング等の要請があった場合は、適宜対応した。

⑤3か年の中期計画等の策定

下記⑥イの報告会までに、3か年の中期計画、事業の振返り等を、別途地方支援事務局が示す様式に従い作成し、地方支援事務局に提出した。

⑥連絡会及び合同報告会への参加

連絡会及び合同報告会には、本事業の責任者と協働取組関係者1名以上が参加した。

ア 連絡会

課題の共有、事業の進捗の確認等のため、地方支援事務局が名古屋市において開催する連絡会（平成28年7月14日と平成29年月3日の2回）に参加した。

なお、課題の共有、事業の進捗の確認等のため、必要な資料を作成した。

イ 合同報告会

平成28年度地域活性化に向けた協働取組の加速化事業における全国の関係者が東京に集まって開催される合同報告会（平成29年2月18日）に参加し、本年度事業の成果と3か年の中期計画等の発表・共有を行った。

ウ その他

上記ア、イのほか、以下の会議に参加し、本事業について事例発表を行うとともに、協働取組を拡大していくための意見交換を行った。

- ・ 平成28年11月30日（長野市） 協働コーディネーター地域ブロック研究会
 - ・ 平成29年1月20日（名古屋市） マルチステークホルダーダイアログ2016
- ※ いずれも中部環境パートナーシップオフィス（以下、「EPO 中部」という。）主催の会議に招聘されたものである。

(3) 業務の実施期間

自 平成 28 年 7 月 1 日

至 平成 29 年 3 月 17 日

■主な取組一覧（月次報告より）

	事業		会議	
	実施日	実施内容	実施日	実施内容
7月	7月30日	レスパイト活動の視察	7月14日	第1回連絡会
			7月27日	第1回協働定例会
8月	8月29日	協働メンバー懇親会	8月30日	第2回協働定例会
	8月29～30日	関係者ヒアリング		
9月	9月13日	里山の現況調査（香山氏）	9月20日	第3回協働定例会
	9月20日	里山の現況調査（上原氏） 水源調査		
	9月25日	レスパイトチャリティコンサートへの参加		
10月	10月8日	松本平タウン情報 記事掲載	10月5日	第4回協働定例会
	10月14日	信濃毎日新聞 記事の掲載	10月10日	イベント打合せ
	10月15日	里山フォーラム		
	10月16日	市民タイムス紙 記事の掲載		
11月	11月11日	地図作成のための山林調査	11月1日	第5回協働定例会
	11月24日	木馬試作の為、福祉施設への訪問・ヒアリングを実施	11月30日	協働コーディネーター地域ブロック研究会
12月	12月1日	森林療法トライアルの実践 （森林内での簡易・軽作業）	12月1日	第6回協働定例会
	12月22日	筑北村・村長の現地視察および 取組内容の説明	12月26日	第7回協働定例会
	12月26日	協働メンバー懇親会		
1月	1月17日	水源調査レポートの完成	1月20日	マルチステークホルダーダイアログ 2016
	1月31日	里山現況調査レポートの完成		
2月	2月15日	周知広報リーフレットの完成	2月3日	第2回連絡会
			2月7日	第8回協働定例会
			2月18日	合同報告会
3月	上旬	周知広報リーフレットの配布		

2. 実施体制

(1) 経緯

本事業の実施に至るまでの里山・森林に関する地域活動と、筑北村の歴史について、主な経緯は、下記のとおり。

【筑北村の歴史】

1875年（明治8年）～1889年（明治22年） 合併を重ね、本条⇒本城村の誕生

1945年頃まで（昭和20年頃まで）

農業（稲作）が中心。牛馬を飼い、荷車を引く時代。

養蚕業が隆盛（桑の栽培、生糸工場）※昭和24年頃ピーク

1945年（昭和25年）～ 戦後の食糧難。桑の木を掘り返し、小麦や白菜を栽培。

西条（サイジョウ＝「最上」）白菜の栽培。※現存する。

一家族5～10人くらいの子供、村の人口ピークに。

※昭和35年に11,361人

1960年頃まで

高度経済成長。製造業が隆盛。村内にも電子機器、鋳物工場が誕生。一方、都市へ働き手の流出、人口減が始まる。

1970年（昭和45年）

過疎地域対策緊急措置法成立と同時に、本城村、坂井村、坂北村の3村が過疎地域に指定される。

2015年（平成27年）

村内の小学校が統廃合。（本城地区には、小学校無くなる）

※現在、人口4,600人程

【本活動の前史】

1912年頃（明治45年～大正元年頃）（有）公益団の設立（竹之下愛林会の前身）

1974年頃（昭和49年頃）

竹之下愛林会（地縁団体）の設立。この頃、当地区の耕作地転用（畑跡での植林・造林）が始まったと思われる。

2013年（平成25年）4月

（株）柳沢林業が、当地区の邸宅の伐採工事を請負う。住民の要望を受け、当地区の山林整備の検討を開始。

2015年（平成27年）10月

森林調査の結果、従来通りの森林整備は、困難であるため断念。別の方法を模索。

竹之下愛林会代表（橋本定治氏）と、柳沢林業が面談。里山の手入れにつき、賛同を得る。

親子はねやすめ（里山保全再生ネットワーク）
代表と Re Forest Camp（筑北ファン倶楽部）
代表と、柳沢林業が面会。取組みの賛同を得る。

2016年（平成28年）年始 環境省協働取組加速化事業（本事業）の応募検討開始。

2016年（平成28年）3月 橋本定治氏の呼びかけにより、「東条高畑及び森林
整備協議会」（山林所有者の代表組織）が設立。

筑北村社会福祉協議会への参加打診、承諾。

村役場への本事業参加打診、承諾。

平成28年度地域活性化に向けた協働取組の加速化事業
に応募（5月採択）

2016年（平成28年）5月 東京農業大学 教授 上原巖氏
山仕事創造舎（山川草木）代表 香山由人氏
両氏に、本事業への参画を打診、承諾。

2016年（平成28年）7月 本事業の開始

（2）目的

本事業の推進は、各組織・団体の代表者及び関係者が集まる「協働定例会」をもって行うこととし、目的を次のとおりとした。

① 里山の価値の見直し

筑北村の豊かな自然環境の価値を見直し、森林と人との共生関係の再構築を通じて、里山を中心とした山村の暮らしを再生する。

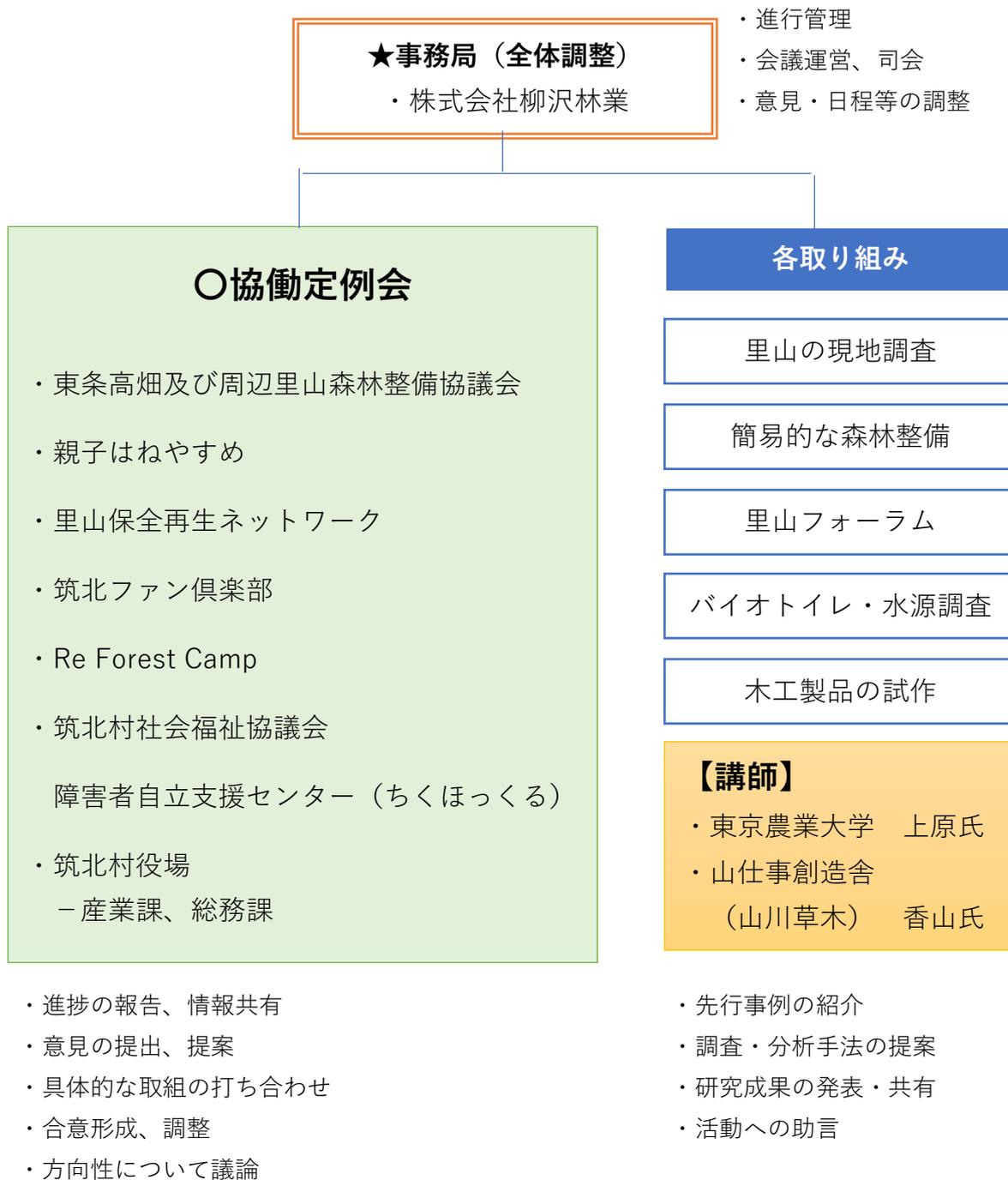
② 幅広い人々との連携づくり、関係の模索

地元住民のみならず自然環境に触れることを望む都市住民や、福祉・医療関係者など多様な立場の人々が関われる森を目指し、高齢者の健康促進・若者や障がい者の就労支援、都市と山村住民との交流、林業と福祉の連携といった多方面の関係構築を模索する。

(3) 構成及びその役割

本事業を推進した協働定例会の構成を下図に示す。また、協働定例会に所属する関係団体の構成員及びその役割は、次の表のとおり。

■推進体制図



■協働定例会 構成員

No	所 属	氏名	役職等
1	東条高畑及び周辺里山森林整備協議会	橋本 定治	会長
2	東条高畑及び周辺里山森林整備協議会	米山 豊	副会長
3	東条高畑及び周辺里山森林整備協議会	橋本 正義	副会長
4	東条高畑及び周辺里山森林整備協議会	中村 嘉孝	会計
5	東条高畑及び周辺里山森林整備協議会	橋本 逸士	事務局
6	里山保全再生ネットワーク 親子はねやすめ	岩間 敏彦	代表理事 理事
7	Re Forest Camp 筑北ファン倶楽部	石田 武	代表
8	Re Forest Camp 筑北ファン倶楽部	関崎 隆	
9	筑北村社会福祉協議会 障害者自立支援センター(ちくほっくる)	和栗 剛	施設長
10	筑北村社会福祉協議会 障害者自立支援センター(ちくほっくる)	滝澤 正也	主任
11	株式会社柳沢林業	原 薫	代表取締役
12	株式会社柳沢林業	大瀧 秀明	常務取締役
13	株式会社柳沢林業	藤澤 良太	事務全般
14	筑北村総務課	宇都 章吾	主事
15	筑北村産業課	宮島 卓也	主事

■協働定例会 構成員以外の参加者（オブザーバー等）

No	所 属	氏名	役職等
1	株式会社柳沢林業	若林 悠平	人材育成担当
2	企業組合 山仕事創造舎 (株式会社 山川草木)	香山 由人	代表
3	東京農業大学 地域環境科学部 森林総合科学科 造林学研究室	上原 巖	教授
4	筑北村企画財政課 地域おこし協力隊	飯田 智子	
5	筑北村企画財政課 地域おこし協力隊	大場 鈴子	
6	村内木工作家	福田 正隆	

3. 事業実施の概要

(1) 協働定例会の設置・開催

関係者が集まる機会として本会を開催、運営した。

当初は、本会の目指す方向性・未来像が確固として定まっておらず、関係者それぞれの想いも異なっていたため、意思疎通も難しい状況であった。しかしながら、会が進むごとに、議論は活発化し、年間を通じた手応えを感じている。特に、最初は遠巻きだった地元の方々が、徐々に積極的になった様子には驚かされた。積極的な意見が出るようになり、かつ出た内容を実現化するために話し合った具体的な様子は、資料6を参照のこと。

本会の大まかな流れとしては、期間前半は、里山の現地調査とフォーラムに向けた議論を、後半は、フォーラムを受けた今後の可能性についての議論を行った。

■協働定例会 開催記録

開催日	場所	協議内容と決定事項
第1回 7月27日 16:00~18:15	筑北村東条 竹ノ下公民館	1. 本事業概要の共有 2. 役割分担と日程確認
第2回 8月30日 15:00~17:00	筑北村東条 竹ノ下公民館	1. 里山フォーラム日程調整 2. 現地調査に向けて
第3回 9月20日 15:00~17:00	筑北村東条 竹ノ下公民館	1. 現地調査の結果を受けて 2. 森林保健活動・森林療法のレクチャー (上原氏) 3. 里山フォーラム日程案、詳細について
第4回 10月5日 15:30~17:00	筑北村東条 竹ノ下公民館	1. フォーラムに向けた準備、設営、進捗の確認 2. 当日タイムテーブルの確認 3. 広報活動の報告
第5回 11月1日 15:00~17:00	筑北村東条 竹ノ下公民館	1. EPO 中部関係会合の案内 2. 里山フォーラム振り返り 3. 全体進捗の確認
第6回 12月1日 13:30~15:30	筑北村東条 竹ノ下公民館	1. 里山についてこれからやりたいこと(ブレーストミグ)
第7回 12月26日 15:00~17:00	麻績村あかり	1. 木馬試作、バイトル・水源調査、里山レポートの進捗 2. 今後の展開について
第8回 2月7日 13:30~15:00	筑北村東条 竹ノ下公民館	1. EPO 中部関係会合の報告 2. 全体進捗の確認

資料6

(2) 協働取組カレンダーの作成

事業の目的、目標、行動計画を関係者と共有する為、協働取組カレンダーを作成した。

(3) 協働取組カレンダーに基づく協働取組の実施

■ 里山の環境整備

★1 里山の現況調査

本調査において、香山氏が挙げたコンセプトと、詳細については下記のとおり。

対象地域里山の基本的条件と、今後に向けたアイデアにつながるような見通しをつけ、通常の林業的な森林調査とは異なったアプローチで、今後の事業計画の道標となる白地図的な資料を提供することを目的とした。

【調査の方向性（コンセプト）】： 多様な人々が里山にアクセスできる
木材利用に限らず、多様な空間利用を構想する。

開催日	内容	講師・参加者
9月13日 9:00～15:00	目標林景の提示に向けた里山調査 ・香山氏の森林の見方について、レクチャー	香山由人氏 他10名
9月～1月 (計4回)	里山現況調査レポート作成のための現地調査	香山由人氏の み



★2 心身障害児受入れに向けた空間の整備

空間整備に向けた検討では、上原氏の助言・参画を得て行った。詳細は下記のとおり。

【空間活用の観点・方向性】： 地域の対象者からのニーズの引出し、
地域の森林の見直し・活用（今の自分たちに何ができるか？）
協力可能な複数領域の専門家
（医療、福祉、心理、教育、森林・・・）
少人数から始める。継続調査&データ化

開催日	内容	講師・参加者
9月20日 9:00～15:00	・里山空間の整備に向けた調査 ・上原氏の空間活用手法（森林療法・保健活動） についてのレクチャー、計画の進め方への助言	上原巖氏 他10名
10月15日 里山フォーラム内の現地体験、講演	・前回調査を受けた、提案 ・実際の森林内での森林療法等のレクチャー	上原巖氏 他40名



■心身障害児向け木製遊具・木工製品の試作及び試用状況調査

間伐材の利活用の可能性の検討のため、間伐材を用いた心身障害児向け木製遊具・木工製品の試作として、木馬を試作した（1種類）。協働定例会における議論を踏まえ、調査結果についても協働定例会において共有し、今後の製作における判断資料として活用できるものとした。

開催日	内容	取材者
9月3日 14:00～15:00	あおぞら nobi （長野県安曇野市三郷温） ■目的 事業説明と、ヒアリング協力依頼。	岩間氏
9月14日 17:00～18:30	チャイルドデック ほわわ吾妻橋 （東京都墨田区吾妻橋） ■目的 事業説明と、ヒアリング協力依頼。	岩間氏
11月24日 15:30～17:00	あおぞら nobi （長野県安曇野市三郷温） ■目的 木材を活用した障害児の身体運動促進、木製遊具と木馬についてのヒアリング	岩間氏、田井中氏、原氏
12月2日 14:00～15:30	チャイルドデック ほわわ吾妻橋 （東京都墨田区吾妻橋） ■目的 木材を活用した障害児の身体運動促進、木製遊具と木馬についてのヒアリング	岩間氏、田井中氏



【試用状況調査ヒアリングレポート（抜粋版）】

木製遊具制作ヒアリングシート

訪問先	あおぞらnobi①	日時	2016年9月3日 14:00～15:00
対象者	石曾根様(所長)、堀崎様(利用者家族)	取材者	岩間
<p>■目的 プロジェクト説明とヒアリングへの協力依頼。</p> <p>■内容 ・ぜひ協力したい。 ・プロトタイプはとてもシンプルで面白い。可能性を感じる。 ・座部の工夫が必要かもしれないが、試用してみたい。 ・その他、木製遊具は検討しておく。</p>			

訪問先	ほわわ吾妻橋①	日時	2016年9月14日 17:00～18:30
対象者	佐藤様(拠点長)、近藤様(当時は姉妹施設の拠点長)	取材者	岩間
<p>■目的 プロジェクト説明とヒアリングへの協力依頼。</p> <p>■内容 ・ぜひ協力したい。 ・遊具はとても大切。作業療法士などの意見も聞いておく。 ・福祉関係者だけでなく生まれにくい発想のため、とても楽しみ。これを機に(我々の)視点も広がるといい。 ・次回は利用者が多い時間をセッティングする。</p>			

木製遊具制作ヒアリングシート

訪問先	あおぞらnobi②	日時	2016年11月24日 15:30～17:00
対象者	石曾根様(所長)	取材者	岩間、田井中、原
<p>■目的 木材を活用した障害児の身体運動促進、木製遊具と木馬についてのヒアリング</p> <p>■内容 児童について ・階段昇降ができる児童であれば、たいはりの活動はできる。着席行動できない児童は座って話ができるか訓練している。 ・触覚過敏の子が多い。いろいろな手触りの違いを感じるようだ。中には洋服はこれか着られないという子もいる。</p> <p>施設における木材利用の可能性 ・木造による建物自体ではなく床、壁など施設の室内空間に全体に木材を利用することが考えられるが、現状は梁など構造材が中心。 床はカーペット敷きである。什器類は木材。またボルダリング用の壁が設置されており、これは板材である。 ・空間の多様な活動を考慮し、種力、モノを置かれない、壁一面が収納什器となっており使用しないものは常に片付けられる。 ・基本的に床座である。 ・視覚からの刺激を減らすため空間に使用する色は少なく、また蛍光灯を使い一定の光量を維持している。(陰影をつけぬい) ・梁はカーテンレールが設置され間仕切りが行える。またロープを渡すことで簡易的なブランコとしても使用できるとのこと。 ・施設以外に検討されるのは介助ツールや遊具の木質化が挙げられる。児童の移動を助ける介助ツール例えば台車は介助ツールであると同時に遊具でもある。これらの多くは既製品ではなく、木材を利用して新たに制作していくことが可能であろう。</p> <p>遊具全般について ・おもちゃを使って刺激する。身体の動きを助けることができると良い。与えたい刺激に合わせて介助者が遊具を準備する。 ・木製のものとしては階段伏テーブル、いす、押し車、オーグドレッジのいろいろな木を使った積み木などが興味深い。 ・階段伏テーブルは海外製品であり、無塗装、ニス仕上げのモノ。階段昇降の運動に使いがらやすくてテーブルとしても使用可能。 ・押し車は歩行練習用。木材であり無塗装。</p>			

木製遊具制作ヒアリングシート

訪問先 ほわわ吾妻橋②	日時 2016年12月2日 14:00~15:00
対象者 近藤様(拠点長)、飯村様(スタッフ)、ほか介護スタッフ	取材者 岩間、田井中
<p>■目的 木製遊具と木馬についてのヒアリング</p> <p>■内容 児童について ・動けない子、動けない子に因じて遊びを変えている。 ・訪問当日は重度の障がいを持つ児童も来所しており介助中も呼吸器を装着しながらの介助を行っていた。</p> <p>遊具全般について ・児童が自身のみで自発的に遊具を選び、遊ぶことは難しい。必ず介助者が1、2名が付きそう必要がある。逆に介助者が操作する遊具の可能性もある。 ・既製品にこだわらず、身の回りのモノを工夫して手作りしているものが多い(段ボール箱を利用した積み木など)。児童の症状が様々でありマスプロダクンよりも、身体性に合わせた遊具の方が使い勝手が良い。 ・ビニールボールを利用した「揺れるベッド」(エアベッド)など視点が動く遊具が喜ばれる。 ・寝た姿勢だけでなく、可能な限り体を起こす運動をさせたい。視点だけではなく内臓の位置も動き、体内からの刺激も得られる。 ・使用する児童だけでなく介助者が使いやすいか、という視点で遊具検討の必要もある。 ・ビルの構造上、難しいが、天井からブランコなどを吊せるといい。</p> <p>木馬プロトタイプについて ・荷物持ち(呼吸器など)の子が多いので、それらを引っ張ったり乗せられるしかながあると面白い。 ・症状に合わせてカスタマイズできる余地が取れるので形状がシンプルな点が非常に評価できる。実際に使用する際は足の長さの変更、持ち手のカバーなど体型、運動量に合わせたカスタマイズがされる。 ・カスタマイズをいとわない親御さんが多いので、現在のタイプで問題ない(移動のバギーもかなりカスタマイズしている)。 ・障がいを持つ児童向けに特別にデザインする必要はなく、健常者と同じデザインのもので十分に対応が可能。 ・障がいの有無に関わらず、工夫して使える余地を残しておくことが求められている。</p>	

検討結果

木馬

デザインは好評であった。ヒアリングを通じてカスタマイズの余地を残しておくことの大切さを知ったため、プロトタイプでほぼ目的を達成していると判断した。

従って今回は補強のみを行い、試作品とする。その後、施設で時間をかけて試用してもらいながら、バリエーションを増やしていきたい。

その他遊具

さまざまな児童の身体性に合わせた遊具、可能な限り体を起こす運動がさせられる遊具、移動を助ける介助ツール(台車など)といった具合に多様な希望があった。

絞り込むには時間がないため、引き続き検討課題としたい。

また、遊具だけではなく施設での木材利用の可能性も開けた。別途、プロジェクトを立ち上げて検討する価値がある。

■ 里山フォーラムの開催

里山フォーラムの開催と、開催に当たっての準備の経過については、下記のとおり。
 なお、フォーラム当日の詳細や、広報用の関係書類は、別添資料をご参照のこと。

開催日	内 容	講師・参加者
8月30日	里山フォーラム開催日・場所の決定	協働定例会
9月20日	対象者、会場、展示物、説明内容、昼食提供、講師との調整、広報物などについて決定、申し込み開始	協働定例会
9月29日	会場（2階建て、60名収容）の清掃、駐車スペースや館内下見、広場の草刈り	事務局（柳沢林業）
10月5日	参加申し込み状況の確認、村内放送、広報（プレス）、設営・備品（椅子・プロジェクタ、やかん・ガスコンロ等）、会場案内板、駐車スペース、山（現地）と会場の移動手段確保、展示物、現地ワーク内容、アンケート、当日タイムテーブル・役割分担の最終確認	協働定例会
★当日 10月15日 9:00～15:45 （場所：筑北村東条「伝承館」）	<p>【午前の部】 9:00～12:00</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション/あいさつ ・Dr 上原と歩こう！森を知ろう！（現地ワークショップ） <p>【お昼の部】 12:00～13:00</p> <ul style="list-style-type: none"> ・里山の恵みを楽しむ（昼食ふるまい） <p>【午後の部】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本事業、家族がが 伴旅行の紹介 13:30～14:00 ・香山由人氏の「森林講話」（14:00～14:30） ・Dr 上原の「森林療法フォーラム」（14:30～15:45） ・フロアとの意見交換/閉会のあいさつ 	<p>約 50 名</p> <p>（一般参加者 19 名） （登壇者 3 名、実行スタッフ 17 名） （中部地方環境事務所 2 名、地方支援事務局 2 名、EPO 中部運営委員 2 名、長野県庁 1 名）</p>
11月1日	里山フォーラム振り返り（アンケート結果を受けて） ・参加者からの反響、意見、感想と、今後に向けて	協働定例会

環境省事業：平成28年度地域活性化に向けた協働取組の加速化事業

みんなで創り守ろう、地域の里山

里山フォーラム



いま、筑北村の竹之下地区にある高畑という里山で、「福祉」をキーワードとした里山再生プロジェクトが進んでいます。日本国内では類例が少ない取り組みです。

そこで現地の見学会や、プロジェクトについてご紹介する機会をつくりました。現地で採用を検討している「森林療法」についての講演も企画しています。

多くの方々の「協働」で実現したいと考えていますので、皆さまの参加をお待ちしています。

参加無料
※要申し込み

2016年10月15日(土)

会場：長野県東筑摩郡筑北村東条・竹之下地区、高畑の里山

プログラム(詳細は裏をご参照ください。)

午前の部	9:00~12:00	東条高畑林内散策及び森林療法の体験(小雨決行・荒天中止)
お昼の部	12:00~13:30	里山の恵みを楽しむ(東条伝統文化等伝承施設にて)
午後の部	13:30~15:45	事業紹介、家族レスパイト旅行等紹介、香山由人氏による森林講話 東京農業大学・上原教授による講演(東条伝統文化等伝承施設にて)

主催 筑北村東条 里山交流促進計画 協働プロジェクト(事務局：株式会社柳沢林業)
構成団体 株式会社柳沢林業、東条高畑及び周辺里山森林整備協議会、筑北村役場総務課・産業課、株式会社信州ちくほく、
地域団体Re Forest Camp(筑北ファン倶楽部)、筑北村社会福祉協議会障害者自立支援センター「ちくほつくる」、
NPO法人里山保全再生ネットワーク、NPO法人親子はねやすめ

協力 環境省中部環境パートナーシップオフィス
後援 筑北村

お問い合わせ・お申し込みは

事務局 TEL:0263-87-5361 FAX:0263-87-5362(柳沢林業 藤澤・原) Mail info@yanagisawa-ringyo.jp

※お申し込み締切は10月4日です。お席に限りがございます。応募多数の場合は先着順とさせていただきます。

みんなで創り守ろう、地域の里山 里山フォーラム・プログラム

【高畑の里山にて実施】

9:00～12:00 Dr上原と歩こう!森を知ろう!(現地ワークショップ)
※9:00に竹之下公民館に集合し、高畑の森を歩いたり、作業療法などの健康づくりにも有効な手法を上原先生の指導のもと学び、体験します。

【東条伝統文化等伝承施設にて実施】

12:00～13:30 里山の恵みを楽しむ
※地域で採れた食材を使った豚汁、焼き芋、新米おにぎりなどをご提供します。

13:30～14:00 里山交流促進事業のご紹介、家族レスパイト旅行等の取り組み紹介
※本プロジェクトについてご説明するほか、筑北村を舞台として行われている「家族レスパイト旅行」についてご紹介します。

14:00～14:30 香山由人氏の森林講話
(休憩15分) ※森林の見方、つきあい方についてご講演いただきます。

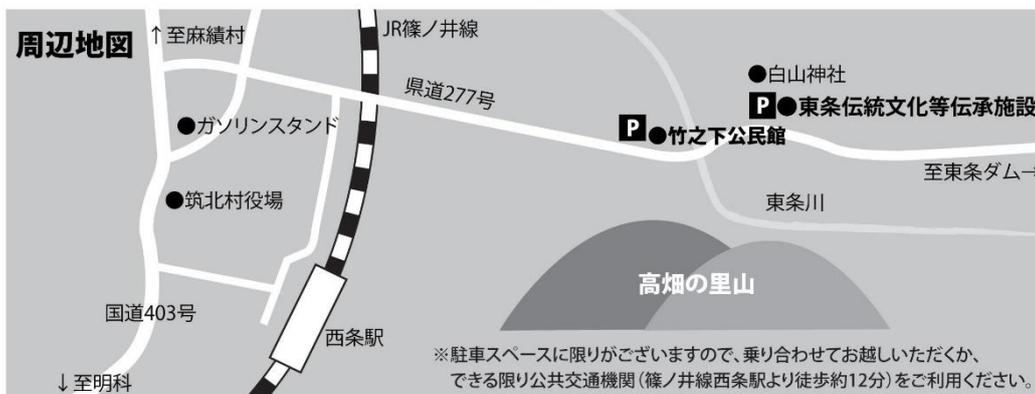
14:45～15:45 Dr上原の森林療法フォーラム 講師:東京農業大学 上原巖氏
※「里山と共に豊かに暮らす～森も明るく、人も明るく～」を演題に、各地で行われている「森林療法」などについてご講演いただきます。

香山 由人氏のプロフィール

株式会社山川草木(森林コンサルタント・地域資源商社)・企業組合山仕事創造舎(林業事業体)代表。神奈川県川崎市出身。上智大学文学部哲学科卒業。井戸掘り海外協力のNGO、国会議員秘書などの経験を経て、農林業を志向。1994年、旧・八坂村へ移住。荒山林業(大町市)で現場作業員として5年間勤めた後、2000年に仲間と企業組合「山仕事創造舎」を設立。新規参入が困難な業界において、北安曇地域の森林整備実績を重ね、多数の雇用を創出。民間事業体としていち早く「森林施業計画」の策定や、森林イベントを開催し、県内林業事業体の模範となっている。経営者としての顔も持ちつつ、林業歴20年のベテランとして、知識・経験が豊富で、各地からアドバイザーとしての声がかかる。長野県指導林業士。長野県林業士会会長(2004-2009年)。県森林保全条例検討委員(2003年)、長野県森林審議会委員(2004-2005年)等を歴任。

上原 巖氏のプロフィール

東京農業大学 地域環境科学部 森林総合科学科造林学研究室 教授。長野市出身。東京農業大学農学部林学科1988年卒業。信州大学農学研究科(森林科学専攻)修士課程修了、岐阜大学連合農学研究科(生物環境科学専攻)博士課程修了、博士(農学)。長野県立下高井農林高等学校教諭として7年、知的障害者更生施設「親愛の里松川」・「緑の牧場学園」等の療法者としての勤務5年を経て、現職。2010年4月より、日本森林保健学会理事長。森林の保育管理全般について造詣が深く、地域の森林資源を大切にしながら、森林環境の持つ多面的効用を発揮する手法には定評があり、長野市、伊那市の委託事業などをはじめとして全国・各方面での実績多数。著作・監修に『実践!上原巖が行く 森林療法最前線』(2009年、全国林業改良普及協会)、『回復の森(人・地域・森を回復させる森林保健活動)』(2012年、川辺書林、日本森林保健学会)など。



★イベント広報活動

(新聞各紙等への掲載状況)

掲載日	内容
10月8日	<p>◆松本平タウン情報 記事掲載</p> <p>【見出し】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業や住民ら協働、15日フォーラム ・福祉合言葉に里山再生 ・筑北 障害者の作業療法として森林整備 <p>※写真キャプション：「障害者も健常者も気軽に入れるようになり、地域に活気が出れば」と、高畑を指差す橋本会長</p>
10月14日	<p>◆信濃毎日新聞 記事掲載</p> <p>【見出し】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筑北の里山 福祉利用へ 作業療法など計画 ・企業やNPO協働プロジェクト <p>※写真キャプション：里山フォーラムのチラシを持つ柳沢林業の原社長</p>
10月16日	<p>◆市民タイムス 記事掲載</p> <p>【見出し】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・筑北の里山“癒やし”で再生 ・福祉と連携 森の恵み活用 <p>※写真キャプション：里山のスギやヒノキを用いて芳香蒸留水を創る上原さん</p>
11月号	<p>◆筑北村 村報・議会だより・公民館報『ホットスポット ちくほく』 (P16～P17) 「本地域で里山フォーラムが開催されました」</p>

(村内放送を用いた広報活動)

実施日	内容	手配
10月7日 夜	<p>・イベント日時、申込先(窓口：筑北村総務課)、 交通手段など諸注意について、お知らせ</p>	筑北村総務課
10月8日 昼・夜		
10月9日 夜		

森林に入る前のストレスチェック



森林散策の様子



上原先生による植物解説



芳香蒸留水とクワ茶の製作



芳香蒸留水の試供・クワ茶試飲



市民タイムス紙 記者の取材



林内リラクゼーション



林地残材の片づけリレー



お昼の部・食事提供



食事提供のおにぎり



午後の部・伝承館内イントロダクション



事業紹介（柳沢林業・原）



レスパイト紹介（親子はねやすめ・岩間）



森林講話（山川草木・香山）



森林療法 講演（東京農業大学・上原）



閉会のあいさつ（協議会・米山）



■ 周知広報活動

- ★1 家族レスパイト旅行を行う団体のイベントに1回参画し、本事業について周知し、理解の促進を図った。

開催日	内容	講師・参加者
9月25日 13:30~15:30 安曇野市碌山公園研成ホール	【家族レスパイト旅行応援チャリティコンサート】 主催：ほっとくらぶ（協力：親子はねやすめ） ◆社会福祉活動の一つとして、本事業について周知し、理解を深める為、参加した。	2名

【イベントチラシ（表面）】

【イベントチラシ（裏面）】

長野県地域発元気づくり支援金活用事業

ほっとくらぶ

田中正敏氏（クラリネット奏者）
**家族レスパイト旅行応援
チャリティコンサート**
～ジブリからクラシックの名曲まで～

【同時開催】
牧島広寿氏 講演「共に生き、夢を持てる心のバリアフリー」
家族レスパイト旅行報告会

2016年9月25日
安曇野市碌山公園
研成ホール（地図は裏面参照）
開場 12:30 **入場無料**
開演 13:30

家族レスパイト旅行とは
重い障がいや病気を抱ったお子さんとそのご家族、ボランティアが、自然の中でのびのびと遊んだり、みんなで笑い合ったりすることを通じて、心と体のパワーを育む時間です。

【プログラム】
13:30～14:00 牧島広寿氏 講演
14:00～14:40 家族レスパイト旅行報告会
14:50～15:30 田中正敏氏クラリネットチャリティコンサート

主催 ほっとくらぶ（問い合わせ TEL 090-4009-2524: 斉藤）
協力 特定非営利活動法人 親子はねやすめ

演奏者 田中 正敏氏のプロフィール

東京学芸大学非常勤講師、尚美学園大学非常勤講師、平成音楽大学特別講師、関西ユッフェ・グループ・ジャパン専任講師、ウィンドバンド・フォー・グリーン（東日本大震災被災地の吹奏楽部に楽器を贈る活動）発起人。国立音楽大学卒業後、「のだめカンタービレ」の舞台として有名なフランス国立パリ高等音楽院を日本人では数少ない一等賞で卒業。
全国各地での演奏、音楽活動、音楽大学の講師を務める傍ら、音楽をより身近なものとすることをテーマとして活動中であり、日本では珍しいクラリネット・アンサンブル「プチ・パヴィジョン」をプロデュースしたり、全国各地で家庭的なコンサートを開いたりしている。
また、音楽を通しての社会貢献や、男子・教養子を中心として社会貢献ができる音楽家の育成に取り組んでいる。特に福祉関係への関心が強く、弟子や教え子とともに、こどものホスピスのためのチャリティコンサート、チャイルドケア施設でのコンサート、家族レスパイト旅行でのコンサートなどを開催した経験がある。

講演者 牧島 広寿氏のプロフィール

平成3年 上田市で生まれる。
平成9年 県立こども病院にて脳ジストロフィーと診断される。
平成10年 上田市立南小学校に入学（この夏より歩けなくなる）
平成12年 特別支援学級入級
平成16年 卒業
平成16年 稲荷山看護学校中学期に入学
平成19年 稲荷山看護学校高等部に進学
平成22年 稲荷山看護学校高等部卒業
平成22年 放送大学教育学部入学（臨床心理士を目指す）
平成27年 3月卒業
現在は自宅にて生活。「ひまわりの丘」に毎週木曜通所

牧島さんは移動には電動車いすが必要な障がい者です。ご両親など多くの方々のサポートのもと、講演会などで「共に生きる社会を作る」ために必要と感じていることをお話しいていきます。
多くの重症心身障がい児（若）やそのご家族が社会との距離を感じているいま、牧島さんのお話をうかがいながら、どうしたら「民間レベルの心のバリアフリー」を実現することができるか、一緒に考えてみませんか。

周辺地図

↑大町・白馬
碌山美術館への誘導看板あり
碌山美術館 ●
研成ホール ●
安曇野市穂高 5613-1（駐車場あり）
●西友
穂高駅
JR 大糸線
↑豊科・松本

駐車場詳細図

●碌山美術館
●研成ホール
ここは碌山美術館用につき駐車不可
駐車可能ゾーン

研成ホールに隣した駐車スペースは、碌山美術館用のため、奥の駐車スペースをご利用ください。なお、障がい・重傷児とご家族はホール近くに専用スペースを確保しています。

★2 本事業の目的、取組等の周知広報のためのリーフレット（A4 フルカラー300部）を作成した。

里山ってどんなイメージ？

信州にたくさん広がる里山の風景。でも、「山の中って暗くて怖い。うっかり転んだりして危なそう」、「遠くから眺める分には景色がいいけど、気軽には入れない」など、現代人との関係は極めて希薄です。薪、枯れ葉の肥やし、きのこ、建築・家具への木材利用といった里山との共生は、まるで遠い昔の出来事のように感じられてきました。

経済的な豊かさを実現する過程では自然なことなのかもしれません。ですが、里山にある「埋もれてしまった価値」を現代感に見直すことはできないでしょうか？過疎・高齢化、雇用難など、地域の課題に里山を活かすことはできないか？そう考えるメンバーが筑北村で集まったのがプロジェクトの始まりでした。

【メンバーと思い】
 東条高僧および周辺里山森林整備協議会「住み慣れた土地。わしらが生きているうちになんとかしたい」
 NPO法人里山保全共生ネットワーク「親子はねやすめ」「重い病気や障がいのある子どもと家族のための『親子レスパイトケア』によって里山は理想的な環境。里山の価値も高まります」
 RE FOREST CAMP（筑北ファン倶楽部）「筑北は人が集まる場所になると思っています」
 筑北村社会福祉協議会
 障害者自立支援センター「ちくほつる」
 「筑北村の資源は森林と農業。（障害者を含めた）全ての人が気軽に山に入れる環境を整備したい」
 筑北村役場総務課・産業課
 「村は森林に手を入れてくれる人を求めています」
 株式会社柳沢林業
 「チェーンソーだけが林業じゃない。森と人との繋がりを創るのが林業会社の使命。」

まだまだやりたいことたくさん

森林保健活動に興味々々！
 上原先生の「森林療法」は、老若男女問わず、実践可能なプログラム。この村で、山に興味のある人・体や心の弱っている人、高齢者など問わず、取り組みを継続して、定着させていきたい。

子どもたちが安心して遊べる場所
 森の中の活動は、大人のみならず、子どもたちも必要としているもの。里山の魅力を子どもたちに伝えることができれば、これからの人生、森林を身近な存在として扱ってくれるはず。

森の恵み…特用林産（きのこ栽培）、桑茶摘み
 里山フォーラムで飲んだ桑茶が美味しかった！木材としての価値ではなく、そこにあるもの（桑の木など）を使って、森の恵みを楽しもう。もしかしたら、雇用を生むきっかけにもなるかもしれない。

よくばらず、少しずつ
 筑北村（東条高僧）が、里山での活動のモデルケースとなるように、地道に少しずつ進んでいきたい。

今年筑北村に月に1回ほど訪れました。筑北村里山で何が起るのかワクワクしながら…。環境省事業に採択されたこの取組。私たちの役割は、関わる皆さんと思いを共有し、仕組みをつくるお手伝い。「だれもがこの里山で楽しみ、癒される空間をつくりたい」。本音を交わす皆さんの笑顔、相手を想う言葉、会話を重ねるたびに、みんなでやるぞ！と気迫がみなぎっていきました。そんな協働による関係性の育みが、「高僧」の魅力の一つ。今後の展開が楽しみです。

地方支援事務局
 環境省中部環境パートナーシップオフィス

ご興味のある方は、下記までお問い合わせください。
筑北村東条地区における里山交流促進計画
 事務局：株式会社柳沢林業
 電話：0263-87-5361 FAX：0263-87-5362

筑北村から里山再生、始めましょう！ 筑北・福祉の森づくり

筑北村 Chikuhoku village

筑北村東条地区における里山交流促進計画

高畑の森はこんなところ

段々畑 山頂からの眺め

作業者 シンボルツリーのクワ クワ茶 伊川林道

上原先生との森歩き 土道から見た筑北の山々

そのほかにもみんなで森の活用を検討
 里山フォーラムで座学、木工製品として木馬の開発を、定例会で芳香水づくりなどを実施

里山フォーラム講演会 木馬の開発

この1年で進めたこと

- 協働メンバーの集結！（定例会議の開催）**
 メンバーによる、会議から、いろいろなアイデア・意見が出されます。
- 里山の状況をみんなで調査しよう**
 山の専門家や山林所有者とともに、詳しく林内を調査しました。
【調査結果】
 対象地「東条高畑」は、その名の示す通りに50年ほど前までは一帯が畑で、クワや西条白菜といった野菜を栽培していた。そのため森林保育の観点からは地質が固く、森林保育に適したやわらかい土が少ない場所であることがわかりました。
- 里山フォーラムの開催**
 東京農業大学教授の上原氏、山仕事創造舎（山川草木）代表の香山氏を講師に迎え、この山の未来を考える「里山フォーラム」を開催しました。
【森林療法という観点】
 上原先生の指導の下、桑の葉を煮出してお茶を飲んだり、スギやアカマツ、ヒノキの葉を湯煎して芳香蒸留水を作りました。また、参加者は各自、お気に入りの場所に転がって過ごすという貴重な時間を過ごすことができました。
- 木工製品の試作**
 野外に出にくい障がい児ともつながりたいと考え、医療関係者やデザイナーなどの協力を得て、東条の間伐材が使える木工製品・木工遊具の試作を行いました。
- 森林療法の実践（昔の荷車道を手入れ）**
 上原先生の講演に感化され、森林内で軽作業を行うことでのリラクゼーション・リフレッシュ効果を狙った、森林作業療法の実践を行いました。

山を福祉に役立てる？

村の総面積に占める森林の割合は84%！特産はアカマツが3割、広葉樹が5割（その大半が天然林）

【筑北村の山林の課題】
 ～あとは野となれ、山となれ？～働き手は都市部へ行き人材不足。山の手入れが行き届いていない⇒マツ枯れによる林内の荒廃、市場価格としての材価は低下⇒「林業」として成り立たたない樹木たち（補助金の対象にもなり難い）

見方を変えれば、手つかずの「宝の山」がそこにあるということ。「これまでにない発想でみんなで遊ぼう！」と考える中、荒れた里山を福祉に役立てる発想が生まれたのです。

「福祉の森プロジェクト」
 原点は「いわゆる林業だけが、里山の価値ではないはず！山へ入っての軽作業を通じて、人と山の健康づくりができないか」と考えたことでした。

例えば…
 遊歩道や休憩所を整備して、みんなの「憩いの場」にしたい。
 伐り出した木材を「薪」に、「木工」に、「遊具」にしたい。
 明るく多様な空間で「家族レスパイト旅行」や「自然保育」をやってみよう。
 かつての畑が山林に…ここでは「きのこ栽培」、「クワの葉採取」を。
 目指すところは…「人も山も健やかに」。村の豊かな森林資源で、心地良く過ごしたり、豊んだりできる環境を、多くの方と共に（協働して）作っていくこと。

(4) 地方支援事務局への月次報告等

事業期間の7～2月の各月において、当該月の新たに認識された課題等について、地方支援事務局が示す様式に従い、同局に翌月5日までに報告する(資料2)とともに、地方支援事務局からヒアリング等の要請に対応した。なお、ヒアリングの日程等は次のとおり。

【ヒアリング実施日等】

日にち	時間/場所	連絡先	対象者
8月29日	13:00～14:00 パン屋	筑北村社会福祉協議会 (ちくほっくる)	和栗 剛
	14:15～15:45 とくら温泉研修室	株式会社信州ちくほく	沖村 智
		Re Forest Camp (筑北ファン倶楽部)	石田 武
16:30～17:00 竹ノ下公民館	株式会社柳沢林業	原 薫 藤澤 良太	
8月30日	9:30～11:00 役場	筑北村役場(総務課)	宇都 章吾
	11:00～12:30 竹ノ下公民館	里山保全再生ネットワーク 親子はねやすめ	岩間 敏彦
	13:45～14:45 竹ノ下公民館	東条高畑及び周辺里山 森林整備協議会	橋本 定治 他3名
11月1日	13:00～14:00 役場	筑北村役場(産業課)	宮島 卓也

(5) 3か年の中期計画等の策定 ※資料3、4

3か年の中期計画、事業の振返り等を地方支援事務局が示す様式に従い作成・提出した。

(6) 連絡会及び合同報告会への参加

①連絡会

課題の共有、事業の進捗の確認のため、地方支援事務局が名古屋市において開催する連絡会に参加した(次表参照)。

②合同報告会

全国の関係者が東京に集まって開催される報告会に参加し、本年度事業の成果と3か年の中期計画等の発表・共有を行った。

③その他

EPO 中部が主催する以下の会議に参加し、本事業について事例発表を行うとともに、協働取組を拡大していくための意見交換を行った(次表参照)。

- ・ 平成28年11月30日(長野市) 協働コーディネーター地域ブロック研究会
- ・ 平成29年1月20日(名古屋市) マルチステークホルダーダイアログ2016

■連絡会/意見交換会等の参加記録

開催日・場所	協議内容	協働主体参加者
【第1回連絡会】 7月14日 14:00~16:30 環境省 中部地方環境事務所	<ul style="list-style-type: none"> ●3年間の目標を達成するための、今年度の目標設定と到達のための方策、課題と計画及び支援について ●採択された2つの事業を通しての意見交換を行う 	<ul style="list-style-type: none"> ★(株)柳沢林業 ★NPO里山保全再生ネットワーク ★筑北村社会福祉協議会(ちくほっくる)
【「協働コーディネーター育成事業」長野ブロック研究会】 11月30日 11:00~17:00 長野市市民協働サポートセンター	<ul style="list-style-type: none"> ●長野地域ブロックにおいて、協働コーディネーターが現地視察及び研究会等を行い、それぞれの協働取組についての情報共有や意見交換を行う。 ●各地での事例紹介(本年度、過年度ともに)、動き、スキルに学ぶ。学び、気づきを整理する。 	<ul style="list-style-type: none"> ★(株)柳沢林業 ★筑北村役場総務課 ★東条高畑及び周辺里山森林整備協議会
【マルチステークホルダーダイアログ2016】 1月20日 13:00~16:30 ウィンクあいち会議室	<ul style="list-style-type: none"> ●「協働」という手法を扱う、中部7県の活動グループについて、関係者同士の結びつきや、課題解決の糸口となるべく、意見交換を行う。 ●同時に、協働コーディネーター事業からの発表を受け、意見交換を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ★(株)柳沢林業 ★筑北村役場総務課
【第2回連絡会】 2月3日 14:00~16:30 環境省 中部地方環境事務所	<ul style="list-style-type: none"> ●採択団体の事業報告(①成果・課題、②協働の関係性の変化、③今後の展開)について、発表。 ●審査委員会からの評価、団体の枠を超えた意見交換、相互に学びを得る。 	<ul style="list-style-type: none"> ★(株)柳沢林業 ★筑北村社会福祉協議会(ちくほっくる)

■合同報告会の参加記録

開催日・場所	協議内容	協働主体参加者
【協働ギャザリング2017】 2月18日 10:00~18:00 ベルサール西新宿	<ul style="list-style-type: none"> ●採択された協働取組事業の過程を振り返り、そのポイントを見聞きし、事業の次年度以降の継続に向けた学びを得る。 ●各事業の過程で起きた重要な事柄や、「その時に何が起きたか」「それが何に結びついたか」等を掘下げ、対話を深めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ★(株)柳沢林業 ★筑北村役場総務課

4. 事業の評価・分析

本事業の取組みについて、以下の視点から、評価・分析する。

(1) 事業効率（採算性・費用対効果）

定性的な側面で言えば、月1回ペースの定例会とイベント開催が、活動の中心的な役割を担った中で、その投下した人工（人数、時間数）に比して、活動を下支えする関係者間の「信頼関係の醸成」や、「心理的なハードルの低減」、これらに伴う「積極性・肯定感の高まり」が見られるようになったことが大きな効果と言えるだろう。もともと活動趣旨を専属で担う組織・団体が無い中、協働メンバーの集合体として発足したスタート時点を見れば、こういったマインドセットの変化は、初年度での目標達成と言えるものだろう。

特に、筑北村役場（行政）内での認知度向上は大きい成果であったと言える。当初、メンバーの一員ではあるものの、どちらかといえば消極的だった行政が、事業を進める中で非常に前向きになった点、高く評価できるものと考えられる。

また、活動を通じて、多様な可能性を探るという目的上、やむを得ずビジョンが曖昧なところ（対象者・対象分野を広範囲で捉える傾向）があったが、今後の方向性として、本事業の対象者・実施したい内容が絞られていった点も成果として挙げられる。

当初は、福祉分野の中でも、家族レスパイトケア（重・中度障害児）に重きを置いていた傾向にあったが、協働メンバーによる対話を重ね、森林療法・森林保健活動の先駆者である大学教授からの助言や、メンバー各自の気付きを踏まえ、到達点の設定としては「地域住民」を主眼に据えた「広義の福祉」（welfare=生きるという旅をより良くするためのこと）を目標設定とする点、合意形成が図られた。

定量的な側面で言えば、実際の貨幣(経済)活動への発展には、今少し時間がかかることが予測され、今回の事業（単年度）のみを採って、数量的な効果計測は困難である。しかしながら、ビジョンとして掲げる「森と人が健康に」が、今後展開していくと、予防医療や健康促進等の観点から、地域住民や関係者の医療費等の低減（広義の福祉向上）や、地域社会の活性化というアプローチにより、定量的な試算も可能となり、その効果についても期待できるものと思われる。

(2) 波及的影響

① 地域社会

山林所有者（地域住民）を通じて、筑北村長の紹介を受け、村役場との接点が多数生まれるなど、行政とのやり取りが積極的になされた点、地域社会への波及的影響として挙げられる。

当地区を含め過疎地域は、地域住民の多くが高齢化しており、当村では都市に挟まれた山村という地理的条件もあって、やや閉鎖的かつ新しい動きに億劫な傾向があるが、多数の関係者との対話機会が増加したことで、次第に、地域課題についても積極的に考え、発言する傾向が見られた点、著しい変化が感じられた。

具体的行動としても、村長視察の仲介役を買って出ることや、村役場への働きかけを、彼ら山林所有者（地域住民）自身が、自発的かつ積極的に実施してくれた。また、イベント開催に際しては、会場となる施設や、炊事場、駐車場スペースとしての土地の確保に向け、地域のコネクションを使って設営に動くなど目覚ましい活躍であった。

地域資源の活用という観点においては、里山（森林）に限らず、使われていなかった地域の公民館や、伝承館（施設）、役場関係施設・備品といった、地域に埋没していたものを活用できた点が評価できるだろう。このほかにも、これまで連携していなかった、寺社仏閣や、古道・林道、地域医療施設、学校教育機関など、地域文化の振興に寄与する目ぼしい資源があるので、今後の展開に結び付けていきたい。

②住民生活

協働定例会の参加者（山林所有者、社会福祉協議会、役場など）や、関心の高い住民らにとっては、課題意識を持った人々が一堂に会して対話する機会は、当初ほぼ無い（ゼロ）状態であったのに対し、対話機会が格段に増加し、協働メンバー同士が、多様な構成員・関係者（大学教授ほか）と接点を持つことができ、生活機会の拡大が図られた。

また、協働定例会を通じて、地域の関係性が広がった点も成果として挙げられる。例えば、村の地域おこし協力隊が協働定例会や山林調査の見学に訪れ、彼らが実施する「フットパス（朝さんぽ）」といった企画の紹介を受け、連携可能性を吟味することができた。同じく、定例会参加者から村の木工作家が紹介され、山林調査に参加してもらうなど、当初想定していなかった繋がり・広がりもその波及的影響の一端である。

加えて、山林所有者は、通常、夫（男性）が会議に出席するが、里山イベントを開催したことで、妻（女性）の参加や、意見を聞くことができるようになったことも大きい。山林所有者の妻（女性）たちからは、現地のワークショップについては、説明を聞くだけではなく「もっと自分たちで体験したい」という声が聴かれたことも、印象的だった。

一方で、住民参加という観点からは、参画が一定数に限られた面も否定できないため、今後は、当地区（筑北村本城（東条））に限らず、全村（もしくは松本広域エリアや、長野県内全域、類似の取組みをする全国的なレベルでの連携）へと、住民主体の参画拡大を目指す。

③地域経済

主に、社会福祉協議会と柳沢林業との連携において、社協利用者の就労支援のきっかけ作りの検討が進められた。里山の空間利用が今後、地域経済に貢献する取組みとなるか、

引き続き検討を進めていきたい。柳沢林業単体としても、本事業の副次的な効果として、個人邸宅の伐採工事請負や、役場からの工事入札依頼等といった依頼が増加するなど、村内での認知度向上に伴い、村での経済活動は活発化し、良い相乗効果を生んでいるように思われる。

また、本事業の間接的な取組みとして、社会福祉協議会においては、木質バイオマス利用や、薪の利用が検討されており、本事業で生成された結びつきが活かされるものと思われ、本事業を契機とする地域経済への波及的な効果は今後も期待される。

木馬試作や、木工作家との接点を通じては、里山資源の活用方法に多様な可能性を見出すことができ、今後の発展可能性を感じる事ができた。

④環境

協働定例会や里山イベントなどを通じて、里山（森林内）の現地に赴く機会が多数設けられたことで、生活環境・自然環境いずれの側面でも、協働メンバーや関係者において、里山（地域の森林）に対する関心が高まっていった点は、良い影響であったと言える。一方で、まだ体系的な環境の保全体制の構築といった実践的な取組みには到達していないため、今後定期的（継続的）な山の手入れを進める仕組みづくりへの発展を目指したい。

（3）実施環境

①地域の同意

活動フィールドの山林所有者からの同意は得ており、適宜、同所有者に対しては、個別に事業説明をするとともに、役場への正式な申入れも行っており、役場内への周知も併せて行ってきたところである。

一方で、その他の地区住民全体については、取組みについて周知が十分に及んでいるとは言えない面もあるので、関係者と連携して、事業への同意や理解を十分に得て、取組みを丁寧に進めていきたい。

②法手続きの状況

活動フィールドは、もともと柳沢林業が山林所有者との間で、森林に係る委託契約を締結している民有林であり、民間同士の法的な手続きに瑕疵はない。また、役場からも正式な書面により、本事業への協力を得ることができていることに加え、村長自ら視察に訪れるなど理解も十分に得て実施されており、手続面での問題は生じていない。

(4) 事業の成立性

本事業のビジョンは、協働定例会、連絡会・合同報告会などを通じて、多くの賛同者を得られており、事業の成立に向け、十分な手応えを感じている。

また、本事業を継続的・長期的な視野を以て進めていく上では、柳沢林業単体として以外の形で事業主体（特に事務局機能）を確立することが望ましい点が議論されるようになった。そのため、本事業において事業主体のあるべき姿がどのようなものであるか、筑北村の方々が何を目指しているか、何を目的とするか、という点については、今後の継続的な検討課題である。

本事業の更なる発展を目指す上では、村からの支援を深化させること（具体的には、村の事業施策としての確立）が期待され、この課題については既に議論が始まっている。

(5) 汎用性（モデルケースとしての可能性）

①自然環境

我が国の国土の66～67%が森林であり、長野県の79%が森林である。

また、筑北村においては、85%が森林であり、本事業の取組みは、広範囲に存在する森林と、里山から都市へとグラデーションを描く我が国の地理的・自然的な条件において、汎用性の高い課題であると思われる。特に、里山の遊休地・耕作放棄地化が進み、過疎化による担い手も減少傾向にある中、里山空間・資源を活用した試みは汎用性の高さからも、全国の他地域においても転用可能な提案であるものと思われる。

②歴史的条件

里山の森林は、戦後の拡大造林による計画的な造林地と、そうではない無計画な天然林の差が著しく、一様に林業的な生産に似つかわしい森林が多いといえないのが実際である。

その中においても、耕作地が森林化した過去の経緯を知る生身の住民たちから、自分たちが過ごしてきた土地（概念的な意味での「土地」）を失いたくない、という意識を引き出したことは重要であった。その切っ掛けが印象的で、もともとの意図は、植生等を把握するために行った森林踏査であったが、山林には土地の歴史に対する回顧の念を催させる効能があり、山を見て回る中で、住民たちが続々と昔語りを始めたのである。合同報告会では、それを「筑北ノスタルジー型」と表現した。人に歴史があるのと同様、土地にも歴史があるという観点は、どのような協働取組を進めていくうえでも、とても重要なポイントであり、汎用性が高い切り口と実感したところである。

5. 総括

(1) 協働を加速化した手法とその成果

本事業において、協働が加速化したと考えられる部分においては、次のような手法が有効であったと考えられる。

●【チームの連帯感、パフォーマンス向上】

協働取組を通じて、何より効果が目に見えて現れたのが参加者、特に地域の人々の「心もち」(マインドセット)の変化であった。最初は、「環境省?加速化?」と疑問が湧いていたが、実施するにつれ、不安やあきらめの気持ちが減少していった。

これについては、地方支援事務局から「信頼関係が会議に参加するたびに深まっていた」というコメントをもらった。始まった当初は、地域に住む高齢者たち=長老たちは、なかなか自分ごととして話し合いへの参加ができていなかったが、柳沢林業の原をはじめ、メンバーの本気度を実感すると、皆、「わしらが地元住民を納得させなければ」というほど変化した。そこにまた相乗効果ができていくという経過をたどってきた。実際の森林整備の様子を間近に見る機会もあり、「柳沢林業なら大丈夫だ」という見えない信頼感が生まれてきたことも影響していると思われる。

地域の方々の変化の要因には、自分がそこですぐできることや、自分の価値を再認識し、経験を活かせることが嬉しかったことなどが影響していると思われる。外から何かを入れようとするのではなく、その場所にある土地や歴史の中で発見しようと試みる点に、活動の面白さを発見してくれたものだと思う。

地元の人にとっては自分のためにもなり、その場所が有効に利用される点が良かったのだと思う。

これらの活動の過程で起きた変化の中でも、特に大きなターニングポイントとなったのは、里山フォーラムでの体験であったと思う。その後、参加者の意欲の高まりは目覚ましいものがあった。役場の職員も、最初は事務的な関わりだけであったが、前向きに自発的な動きを見せ、村長視察のセッティングや、教育委員会や興味のある方の紹介などで手腕を発揮した。

●【リーダーシップと、それをフォローするフォロワーシップ】

活動の当初は、柳沢林業の社長である原が、会議や取組みに当たって率先して発言する役割(リーダー)を担っていたが、若い社員・役場職員など徐々に周囲を巻き込んでいき、リーダーシップと、フォロワーシップが上手く機能した例になったように思う。

環境省中部地方環境事務所の担当官からは、「ビジョンとして設定したものと、事業内容

(仕様)として準備した、当初の事業設計がよかった」というコメントがあった上で、「ただ、3D画像をそのまま見ているような感じがしていた。良い画であることは間違いないので、もっとクリアに見せてくれる眼鏡の役が必要だと感じていたところ、その役として上原教授や香山氏、藤澤氏が入り、うまくピントが合い、加速的に進むようになったと思う。原氏のリーダーシップには目を見張るものがあるため、そこを基に進んでいることがわかる」とのコメントが出されている。

社長の原が持つリーダーとしての周囲を巻き込み、説得していく力と、構造的にリーダーがどうしても取りこぼしてしまう全体を見てフォローする役割が適宜分担されて、良い対話が生まれる場が形成されたものと思われる。

フォーラムの際、高畑の歴史が説明されたときに、地元住民たちも昔を思い出して共感していた。高畑や周辺里山は、自分たちのものであり、なつかしさを感じ、村人でやっていたことをもう一度取り戻したいという思いが、地元住民の方々を引き付けていると感じられたのは、リーダーと、フォロワーが上手く連携できた例である。

最後は会議が、座談会のようになり、最初の会議とはずいぶん変わったことから、その様子はうかがえる。

●【里山フォーラムと、講師陣を通じて】

参加者同士が、ほぼゼロベースの関係の中、対話を開始したが、定期的な会合と、イベント開催を通じて、議論の土台を成す大きなビジョン・方向性の合意形成を図ることができた。そのために、特に影響が大きかったのが、森林療法・森林保健活動という先進事例を豊富に持つ大学教授との出会いや、植生等に詳しい専門家といった「第三者の視点」が入ったことであり、これを切っ掛けに議論が活発化した点に言及したい。

➤【里山フォーラムの開催まで】

まず、もともと面識のあった柳沢林業の代表から講師陣へ連絡を取り、松本市での顔合わせ機会を設けた。その上で、イベント準備と、イメージ共有を兼ねて、協働メンバーと講師陣で山林の現地調査を行った。

林業者としては、森林の中でも上層に位置する樹木（比較的大きな立木）に注目して調査することが多いが、講師陣の視点が、森林中層から下層にあたる手の届く範囲の「樹下植生」や、地質・地形、過去の土地の使用履歴（つまり、土地の歴史）への言及が多かった点が印象的であった。また、丸太（建築用材）とは違った各樹木の利用方法の特色（例えば、桑の木から、クワ茶ができること等）について、提案があり、これは、林業（特に素材生産を目的とした伐採）には、ない（もしくは、現在では失われた）視点であり、新鮮であった。

地域の方たち（山林所有者）にとっては、自分たちが過ごしてきた山林（昔の畑）が、専門家からの視点で再評価されていることにいたく胸を打たれた様子で、これがその後の活動意欲を高める効果をもたらしたと同時に、参加者全体の士気向上に効果をもたらした。

現地調査によって、里山へのアプローチ手法として「現存木の利用、現在の自然状態としての森林空間の利用」が見出だされた。それは大規模工事や、専門業者が重機を駆使して林内を整備するような形態を採るのではなく、身の丈（生身の人間が行う、小規模な人数）に合わせた樹木や草葉の利用と、空間の整備を兼ねた小規模な手入れを重ねていく提案であった。これは、自分たちのできる範囲での提案（上原氏の言葉を借りれば「環境の構造化」）であり、遠くに見えるか見えないかの理想像＝ビジョンが、身近に感じられた要因と思われる。

➤ 【里山フォーラムの開催後】

イベント当日は勿論、その準備の過程で、協働メンバーの士気が高まったことを受けて、森林療法や森林保健活動といった切り口をもとに、参加者それぞれから提案が出るようになったことが、成果であった（資料6、7）。これを受け、会議の座席配置を改良する試みがなされ、意見がお互いに述べやすい形態に移行していった。

第6回定例会では、会議資料を配布して進捗確認をする一般的ないわゆる「会議」にせず、ホワイトボードと、黒板と、その場での閃きとアイデアを重視した、「ブレインストーミング」を実施した。司会進行や、ルール説明（ゼロベース思考や、ブレインストーミング4つのルールなどの説明）は事務局が行い、板書（書記）を地方支援事務局に依頼する形式を採った。これは、定例会の良き変化を象徴する印象的な出来事であった。

理念・ビジョンには賛同できるが、それぞれの立場の違いがあり、言いたいこと・思い付いたことを気安く言えないフラストレーションが第1回～第5回までの会議では、少なからず積み重なっていた（実際に、「もっとくだけた雰囲気のにしたい」という、参加者からの意見があった）が、この第6回定例会で、そのハードルは超えていけたと、協働メンバー間でも共通認識となったと思われる。

● 【現地ワークの重要性】

➤ 参加メンバーの森林との関係性の違いについて、認識

林業者である柳沢林業にとっては、森林は身近なものだが、それは世間一般的な意味からすると特殊なケースであり、ほとんど多くの方が日常生活において、山に入ることはないものである、という事実が改めて気付かされた。その証拠に、山林調査のため現地に入ると、林内での普段見慣れない景色に、参加者一同が刺激されている様子が伺えた。机上

の議論よりも、むしろ現地立ち会いにおいて対話が深まったという効果もあった。

➤ ワークショップ開催の意義

現地ワークの手法・種類としては、大別すると現地調査、簡易作業、現地実演の3種類が行われたが、その成果としては2つの成果があった。

まず1つめに、会議において発言回数の少なかった人物も、現地に行くと有意に発言が増えたことが、挙げられる。定例会で話し合う計画や目標といった抽象的な議題では、あまり関心が高まらなかった人物が、現地での活動においては、身体が反応して発言や積極的な行動が見られ、それがその後の関係性作りに効果を発揮した。例えば、発言回数の比較的少なかった高齢の地域住民や、柳沢林業の現場班長が互いに話し合ったり、認識を深め合ったりしている場面が印象的であった。

2つめは、現地ワークを通じた、「記憶の共有」（その土地に対する共感覚の醸成）が、挙げられる。森林内で、実際に身体を動かし、眼で見て確かめた「記憶」（その土地を知っていること）が、その土地に対する共感や、愛着を高める効果をもたらした。また、具体的な土地が、頭の中の地図に位置付けられ（マッピング・俯瞰され）、話し合いの土台となったことも「記憶の共有」の成果である。

●【多世代による議論】

本事業に参加している山林所有者が60代～80代、NPO法人などの代表が50代前後、社会福祉協議会が30代～40代、柳沢林業が30～40代、と若い世代と年長世代がグラデーションするような形で入り混じった状況であり、世代間ギャップは、当初、運営側の想像以上であったように思う。

また、それぞれの経歴としても、村内出身者が半数に対して、村外からの移住者・参加者も半数以上であり、地域間ギャップも会の運営に影響を与えていたように思う。

その中で、年長世代であり古くからの住民である山林所有者が、硬い表情・雰囲気であったところから、徐々に態度を和らげ、率先して協力的な姿勢を取っていったことで、各参加者からも意見が出やすく、村内外の視点に囚われない議論が進められていったことが成果であった。

この関係性が構築されていく過程では、現地ワークや、定例会、懇親会（暑気払い、忘年会）などを要所で実施できたことが、重要であったように思われる。

（2）課題

前述の事業評価と分析においても若干言及はしているが、本項で改めて、今年度の取り組みを通じて認識された課題及び反省点を挙げる。

●【活動の具体化と、実現】

連絡会などでの審査委員とのやり取りでは、当初、「夢が過多」(なので、破綻しないか?)というコメントを受けており、何をどこまで実現化していくか、目指すか、非常に悩ましいところであった。これについては、事業が進むとともに、次第に目指すべきビジョン(理想像)が明らかになってきたため、協働メンバーとしては悲観的にはなっていないものの、継続的な課題ではある。

個別の取組みに関しては、まだ優先度付け、取捨選択について曖昧な部分が多いのも事実である。実行の場面で、何から手を付けるか判断に迷う面は多く、最適なものは何か突き詰めると非常に難しいところであるが、同じく審査委員のコメントにあった「サッカー型の協働の形」(新しい協働のスタイル)のモデルケースとなれるよう、活動を導いていきたい。

●【行政からの協力姿勢の引出し】

連絡会などで審査委員や、参加者から指摘が多かったのが、「行政からの支援はもっと受けられないか」ということであった。

活動当初に比べて、行政職員からは見間違えるように積極的な姿勢が見受けられるものの、たしかに、村役場の担当課を挙げた協力とまでには至っておらず、一部役場職員が方々の調整に追われ、苦労を強いられているのが実際である。

また、村には、環境に関する事務事業を専担で所掌する環境課のような部署はなく、住民福祉課において取り扱っているが、現状では、同課は本活動にコミットしていない。

本事業を通じて最終的に目指したいのは、地域主体の継続的な取組みであり、そのためには行政の協力なしには、難しい。この活動を、継続的なものにするためにも、村からの資金面、人材面、キーパーソンの紹介や、情報提供など、各面で協力を得られるよう、引き続き取り組んでいきたい。

●【継続活動とするための、活動主体の確立】

連絡会・報告会などでは、株式会社(かつ林業專業会社)の当社が本事業に参加していることは、採択団体の中では珍しく、非常に印象的だったようで、多くの方から着眼点の良さに対するお褒めの言葉や、応援の声が聴けた。一方で、当社が主体となって今後、本事業を長期間に渡り進めることは、マンパワーと、本業との兼ね合いからも、なかなか難しく、活動趣旨とこれまでの協働定例会の実態としても協働メンバーを構成員とした「新しい推進団体」が必要だと感じている。今後、こういった主体を構築し、里山交流促進の仕組みと連動して良いチーム、推進体制が作っていけるかが課題である。

□資 料

(資料一 1) 協働取組カレンダー

(資料一 2) 月次報告

(資料一 3) 中期計画 (簡易版)

(資料一 4) 中期計画 (詳細版)

(資料一 5) 会議・協議 議事録

(資料一 6) 第 6 回、第 7 回定例会資料

(資料一 7) 里山フォーラム アンケート調査結果

(参考1) ■協働取組カレンダー ②事業スケジュール

行動計画	2017年度 重点目標・事業内容			2018年度 重点目標・事業内容			2019年度 重点目標・事業内容					
	4月～	7月～	10月～	1月～	4月～	7月～	10月～	1月～	4月～	7月～	10月～	1月～
【目標】協働団体での理念とビジョンの共有、それぞれ役割の明確化、協働体制の構築と関係者の積極的な交流、地域へのレスパイト事業の周知と支援への理解を得ること、今後に展望が開ける可能性を見出すこと 【事業内容】年に5回以上の定例会の開催、里山の現状調査と目標林型の提示、簡易路網の整備とバイオトレイル・水回り環境の調査、心身障がい児受け入れに向けた最低限の空間整備と専門家による方針の提案、心身障がい児向け木税遊具の試作、里山フオーラムの開催、家族レスパイト旅行を行う団体のイベントに参画し、周知広報のためのリーフレットを作成する。												
定期会	定期会の運営(年4-5回)											
補生・水施設・バイオトレイル・簡易路網		補生・水施設調査・簡易路網整備・バイオトレイル設置調査 実施		バイオトレイル設置・水施設整備 実施								
家族レスパイト旅行						実施			実施			
作業療法的森林整備・ホースセラピー						実施			実施			実施
バイオマス協議会											実施	

(資料-2) 月次報告

報告者	株式会社柳沢林業	報告日時	2016年8月5日	
事業名	平成28年度地域活性化に向けた協働取組の加速化事業			
団体名	筑北村東条地区における里山交流促進計画			
前月に注力したステップ (複数回答可)	<input checked="" type="checkbox"/> 集める <input checked="" type="checkbox"/> 共有する <input type="checkbox"/> 実践する <input type="checkbox"/> 広がる			
前月の会議やイベント内容の報告	実施日(曜日)	獲得目標	実施概要	参加者人数等
	7月14日	事業計画や課題についての紹介及び意見交換	【第1回連絡会】 ◆審査委員会でのポイントを知ることができた。 →今年度の達成目標をより明確し、具体的な取り組みに落とし込むことが重要。 ◆他団体の取り組みを知ることができた。 →対象・範囲を絞るとい課題があるようだった。	3名
	7月27日	スケジュールの共有、役割分担の明確化	【第1回協働定例会】 場所:筑北村竹ノ下公民館 ◆スケジュール、役割分担共に問題なく、合意が得られた。今後の取り組みのきっかけ作りは、事務局から積極的に声掛けすることとした。	14名
	7月30日	レスパイト活動の見識を高める・認識共有	【レスパイト活動の視察】 場所:筑北村 西条温泉とくら ◆柳沢林業ノ原が、協働団体である親子はねやすめ、Re Forest Campが主催するレスパイト活動の視察を行った。	3名
協働取組を進める上で留意事項、新たな課題や計画外の事柄等	<p>◆第一回協働定例会を経て (1)認識共有は、問題なく行えたので、今後は、10月下旬を予定とする「里山フォーラム」の開催に向けて、事務局と協働団体が連携し、具体的な取り組みを進めていく。 (2)会議で出た意見の中でも、特に、里山交流促進を目的とした「簡易路網の整備」については、地元住民から積極的な意見・要望が出ているので、実施可能範囲の見極めと、検討を前向きに行っていきたい。 (3)協働団体の内、筑北村総務課から、木工ワークショップへの発展や、村内放送・広報紙・HP等を用いた、当活動のPRをしてはどうか、といった提案が出たので、積極的に取り入れていきたい。</p>			
メディア掲載(掲載日、掲載紙面、見出し等)	<input type="checkbox"/> 新聞・雑誌・広報誌			
	<input type="checkbox"/> テレビ・ラジオ			
	<input type="checkbox"/> Webメディア・その他			
支援事務局への要望	<input type="checkbox"/> 情報提供			
	<input type="checkbox"/> マネジメント機能の強化			
	<input type="checkbox"/> その他			

報告者	株式会社柳沢林業	報告日時	2016年9月5日	
事業名	平成28年度地域活性化に向けた協働取組の加速化事業			
団体名	筑北村東条地区における里山交流促進計画			
前月に注力したステップ (複数回答可)	<input type="checkbox"/> 集める <input checked="" type="checkbox"/> 共有する <input type="checkbox"/> 実践する <input type="checkbox"/> 広がる			
前月の会議やイベント内容の報告	実施日(曜日)	獲得目標	実施概要	参加者人数等
	8月29日(月) 8月30日(火)	本事業への期待や考え、課題等の現状把握	【筑北村東条地区における里山交流促進計画】関係者ヒアリング ●本事業に関わるメンバーに対する対面でのインタビュー(聞き取り者:EPO中部)	17名
	8月30日(火)	進捗状況の共有各議題についての意見交換	【第2回協働定例会】 場所:筑北村竹ノ下公民館 ◆前回からの進捗を確認し、主にスケジュールの調整・共有と、里山フォーラムにおけるアイデア出しを行った。	15名
	8月29日(月)	協働メンバーの親睦	【懇親会】 場所:筑北村竹ノ下公民館 ◆協働メンバーのうち、地域住民で近隣里山の山林所有者の代表者より、提案を受け、当会の懇親会を実施した。	15名
協働取組を進める上で留意事項、新たな課題や計画外の事柄等	(1)里山フォーラムの日程調整が難航したが、今回の会議で決定した。当日の内容確定、段取りにつき、現在調整中。各メンバーが納得でき、当委託事業の趣旨にも沿った良い催しとしたい。 (2)9月には、山見(山林の現地調査)が行われるので、当日の内容も詳しく記録したい。 (3)地域の木工作家の方や、地域おこし協力隊といったメンバーが興味を持って関わってくれそうなので、引き続きフォローしていきたい。			
メディア掲載(掲載日、掲載紙面、見出し等)	<input type="checkbox"/> 新聞・雑誌・広報誌			
	<input type="checkbox"/> テレビ・ラジオ			
	<input type="checkbox"/> Webメディア・その他			
支援事務局への要望	<input type="checkbox"/> 情報提供			
	<input type="checkbox"/> マネジメント機能の強化			
	<input type="checkbox"/> その他			

報告者	株式会社柳沢林業	報告日時	2016年10月7日	
事業名	平成28年度地域活性化に向けた協働取組の加速化事業			
団体名	筑北村東条地区における里山交流促進計画			
前月に注力したステップ (複数回答可)	<input type="checkbox"/> 集める <input checked="" type="checkbox"/> 共有する <input checked="" type="checkbox"/> 実践する <input type="checkbox"/> 広がる			
前月の会議やイベント内容の報告	実施日(曜日)	獲得目標	実施概要	参加者人数等
	9月13日(火)	★目標林型の提示に向けた現地調査(山見)	・香山さん(山仕事創造舎、(株)山川草木 代表)と、植生の現況調査(山見)を行う。 ● 9月13日(火)13:00~16:30 東条高畑	17名
	9月20日(火)	★里山空間の整備に向けた調査(山見)	・上原先生(東京農業大学教授)と、里山空間の現況調査(山見)を行う。東条高畑および公民館にて。 ● 9月20日(火)10:45~13:00 現地調査 同日 14:00~15:00 森林療法等概要レクチャー	19名
	9月20日(火)	進捗状況の共有各議題についての意見交換	【第3回協働定例会】 場所:筑北村竹ノ下公民館 ◆里山フォーラム内容案について、議論。今回のイベントでは、午前に現地ワークショップ(上原先生のご指導、午後にプロジェクトの説明やご講演(香山氏、上原先生)という内容で行くこととした。当日までの準備について、役割分担を行った。	19名
	9月25日(日)	協働団体の取り組みの紹介・情報共有	【家族レスパイト旅行応援 チャリティコンサート】 主催 ほっとくらぶ(協力 親子ナねやすめ) 場所 安曇野市碓氷公園 ◆社会福祉活動の一つとして、紹介、様子を見に来てもらえたら、今後の活動のイメージがわかりやすいとのことで、ご紹介いただき、希望者が参加した。	2名
協働取組を進める上で留意事項、新たな課題や計画外の事柄等	(1)里山フォーラムの内容について、各々団体で、立場や希望も違っているため、対象者や当日内容について、若干議論となったが、今回は出来ることから(よくばらない内容に)する、という方向性で、合意できたと思う。 (2)イベントまで準備期間が短いので、段取りを円滑に行い、メンバーとも上手に協力して進めたい。 (3)イベントとは別に、最終的なビジョン・方向性について、不明な点がある、というメンバーからの指摘もあったので、丁寧にかつ適宜現段階でのイメージを伝えていきたい。			
メディア掲載(掲載日、掲載紙面、見出し等)	<input type="checkbox"/> 新聞・雑誌・広報誌			
	<input type="checkbox"/> テレビ・ラジオ			
	<input type="checkbox"/> Webメディア・その他			
支援事務局への要望	<input type="checkbox"/> 情報提供			
	<input type="checkbox"/> マネジメント機能の強化			
	<input type="checkbox"/> その他			

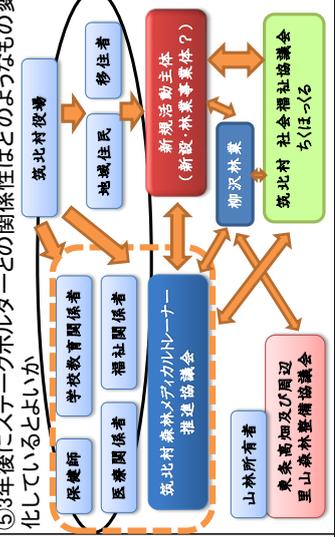
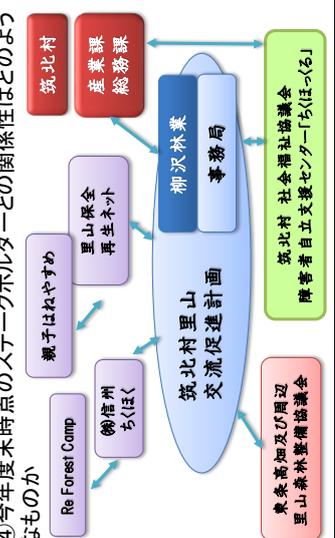
報告者	株式会社柳沢林業	報告日時	2016年11月4日	
事業名	平成28年度地域活性化に向けた協働取組の加速化事業			
団体名	筑北村東条地区における里山交流促進計画			
前月に注力したステップ (複数回答可)	<input type="checkbox"/> 集める <input checked="" type="checkbox"/> 共有する <input checked="" type="checkbox"/> 実践する <input checked="" type="checkbox"/> 広がる			
前月の会議やイベント内容の報告	実施日(曜日)	獲得目標	実施概要	参加者人数等
	10月5日(水)	進捗状況の共有 各議題についての 意見交換	【第4回協働定例会】 場所:筑北村竹ノ下公民館 ◆里山フォーラム準備の進捗を確認した。 会場設営、現地ワークショップの準備、お昼の炊き出しの打ち合わせ、参加呼びかけ等、項目は多岐に渡った。	11名
	10月15日(土)	地域住民の交流 促進、理解促進	【里山フォーラム】 場所:東条高畑の里山、東条伝承館 ①上原先生(東京農業大学教授)と現地ワーク ②事業の紹介、香山氏(山仕事創造舎)の講演、上原先生の講演(詳細は、チラシ参照のこと)	約50名
協働取組を進める上で留意事項、新たな課題や計画外の事柄等	(1)里山フォーラムが盛況で良かった。今後の方針・課題については、次の定例会にて話した。 (2)イベントを受けて、今後取り組みたいことのイメージが関係者それぞれで浮かんできたようで良かった。 (3)一般の参加者(特に、筑北村内、東条近辺の住民)への広がり今後の課題。			
メディア掲載(掲載日、掲載紙面、見出し等)	■新聞・雑誌・広報誌		①「松本平タウン情報」(10/8(土)) 『福祉合言葉に里山再生 筑北 障害者の作業療法として森林整備 企業や住民ら協働、15日フォーラム』 ②「信濃毎日新聞」(10/14(金)) 『筑北の里山 福祉利用へ 作業療法など計画 企業やNPO 協働プロジェクト』 ③「市民タイムス」(10/16(日)) 『筑北の里山“癒やし”で再生 福祉と連携 森の恵み活用』	
	□テレビ・ラジオ			
	□Webメディア・その他			
支援事務局への要望	□情報提供			
	□マネジメント機能の強化			
	□その他			

報告者	株式会社柳沢林業	報告日時	2016年12月5日	
事業名	平成28年度地域活性化に向けた協働取組の加速化事業			
団体名	筑北村東条地区における里山交流促進計画			
前月に注力したステップ (複数回答可)	<input type="checkbox"/> 集める <input checked="" type="checkbox"/> 共有する <input checked="" type="checkbox"/> 実践する <input type="checkbox"/> 広がる			
前月の会議やイベント内容の報告	実施日(曜日)	獲得目標	実施概要	参加者人数等
	11月1日(火)	進捗状況の共有 各議題についての 意見交換	【第5回協働定例会】 場所:筑北村竹ノ下公民館 ◆EPO中部からの関係会合のお知らせ、里山フォーラムの振り返り、事業の進捗状況の共有など	11名
	11月11日(金)	地図作成のための 山林調査・観察	【山見(今後の展開に向けて)】 場所:筑北村東条高畑の山林内 ◆もう一度、山林内をよく観察し、そこで何ができそうか、目印・シンボルとなるものなども見つけつつ、次回の簡易作業トライアルに繋げる。	6名
	11月24日(木)	里山資源の活用 検討(木馬試作の 検討)	【福祉施設への訪問・ヒアリング】 場所:長野県安曇野市「あおぞらnobi」 ◆里山から伐り出してきた木材を使った木馬等遊具作成の検討。福祉施設へ訪問し、ヒアリングを行った。	3名
	11月30日(水)	県内の協働取組 事例について情報 共有・意見交換	【協働コーディネーター地域ブロック研究会】 (長野県内協働事例意見交換会) 場所:長野市市民協働サポートセンター ■県内の協働取組について紹介を受けたり、筑北村(本プロジェクト)について発表したりと、意見交換。	4名
協働取組を進める上で留意事項、新たな課題や計画外の事柄等	<p>◆事業も折り返し地点を過ぎたので、これまでの活動をふまえた、今後の展望・方向性について、協働メンバーで、密に議論していきたい。</p> <p>◆便宜上、主体(旗振り役)は、弊社で行っているが、協働・連携のこれまでとは違った体制づくりを出来たら、進めていきたい。</p> <p>◆役場、福祉施設、山林所有者みな、モチベーションは高く、活動に前向きなので、異なる立場・イメージが違う部分を調和・調整していくことが求められそうだ。</p>			
メディア掲載(掲載日、掲載紙面、見出し等)	<input checked="" type="checkbox"/> 新聞・雑誌・広報誌 <input type="checkbox"/> テレビ・ラジオ <input type="checkbox"/> Webメディア・その他	筑北村 村報・議会だより・公民館報『ホットスポット ちくほく』(P16～P17)「本地域で里山フォーラムが開催されました」		
支援事務局への要望	<input type="checkbox"/> 情報提供			
	<input type="checkbox"/> マネジメント機能の強化			
	<input checked="" type="checkbox"/> その他	出来るときだけかまいませんので、会議の際の、板書(書記)をお願いしたいと思いました。		

報告者	株式会社柳沢林業	報告日時	2017年1月5日	
事業名	平成28年度地域活性化に向けた協働取組の加速化事業			
団体名	筑北村東条地区における里山交流促進計画			
前月に注力したステップ (複数回答可)	<input type="checkbox"/> 集める <input checked="" type="checkbox"/> 共有する <input checked="" type="checkbox"/> 実践する <input type="checkbox"/> 広がる			
前月の会議やイベント内容の報告	実施日(曜日)	獲得目標	実施概要	参加者人数等
	12月1日(木)	実践による感触を得ること	【森林療法トライアル】 場所: 筑北村東条 ◆目的: 森林療法を体験してもらうこと、森や人にどんな変化がみられるか、を体感すること	20名
	12月1日(木)	今後の方針を決定するためアイデア洗い出し	【第6回協働定例会】 場所: 筑北村竹ノ下公民館 ◆目的: 「里山についてこれからやりたいこと」の提案を自由闊達に意見を出し、メンバーで共有すること。	15名
	12月26日(月)	今後の方針決定提案内容の絞り込み	【第7回協働定例会】 場所: 筑北村竹ノ下公民館 ◆目的: 継続活動とするか否か、合意形成。継続活動とする場合、具体的に何を中心に活動を展開するか、絞り込み合意形成。結果報告書のとりまとめにむけて進捗確認	13名
協働取組を進める上で留意事項、新たな課題や計画外の事柄等	【留意事項】 ①事業完了に向けて、報告書や積み残し課題がスムーズにまとめられるよう、引き続き進捗確認を定期的に行っていく必要がある。 ②イベント・会合がいくつかあるので、情報を速やかに関係者に伝達していくよう調整する。 【新たな課題】 継続案件とするため、メンバー全体の協調・かじ取りを確実に行っていきたい。			
メディア掲載(掲載日、掲載紙面、見出し等)	<input type="checkbox"/> 新聞・雑誌・広報誌 <input type="checkbox"/> テレビ・ラジオ <input type="checkbox"/> Webメディア・その他			
支援事務局への要望	<input checked="" type="checkbox"/> 情報提供	①加速化事業そのものが、次年度継続されるか否かの情報提供を要望します。 ②加速化事業以外での補助事業について、応募できそうな案件があれば、情報提供を要望します。		
	<input type="checkbox"/> マネジメント機能の強化			
	<input type="checkbox"/> その他			

報告者	株式会社柳沢林業	報告日時	2017年2月6日	
事業名	平成28年度地域活性化に向けた協働取組の加速化事業			
団体名	筑北村東条地区における里山交流促進計画			
前月に注力したステップ (複数回答可)	<input type="checkbox"/> 集める <input checked="" type="checkbox"/> 共有する <input type="checkbox"/> 実践する <input checked="" type="checkbox"/> 広がる			
前月の会議やイベント内容の報告	実施日(曜日)	獲得目標	実施概要	参加者人数等
	1月20日(金)	他事業の事例から学ぶ	【マルチステークホルダーダイアログ2016】 場所:名古屋市(ウインクあいち) ◆目的:他の事業体に取り組んでいる協働事例を学ぶ。どんな課題意識があるか共有する。	3名
協働取組を進める上で留意事項、新たな課題や計画外の事柄等	■次年度事業の継続可否(可能性として) ⇒加速化事業は継続して設けられるのか。 ■次年度予算の確保 ⇒継続活動とする場合、活動経費を賄う予算確保が課題。 案①)加速化事業に継続案件として応募する 案②)長野県が準備する地域活性化関連の事業に応募する			
メディア掲載(掲載日、掲載紙面、見出し等)	<input type="checkbox"/> 新聞・雑誌・広報誌			
	<input type="checkbox"/> テレビ・ラジオ			
	<input type="checkbox"/> Webメディア・その他			
支援事務局への要望	■情報提供	①次年度加速化事業の継続可否の情報提供 ②継続する場合の、応募要領など早めの募集メ切的情報提供		
	<input type="checkbox"/> マネジメント機能の強化			
	<input type="checkbox"/> その他			

報告者	株式会社柳沢林業	報告日時	2017年3月1日	
事業名	平成28年度地域活性化に向けた協働取組の加速化事業			
団体名	筑北村東条地区における里山交流促進計画			
前月に注力したステップ (複数回答可)	<input type="checkbox"/> 集める <input checked="" type="checkbox"/> 共有する <input type="checkbox"/> 実践する <input checked="" type="checkbox"/> 広がる			
前月の会議やイベント内容の報告	実施日(曜日)	獲得目標	実施概要	参加者人数等
	2月3日(金)	第三者視点での事業評価と、他事業の事例から学ぶ	【第二回連絡会】 場所:名古屋市 中部環境地方事務所 ◆目的:成果報告に対する審査員からの助言等を受け、本事業の評価、今後の可能性を検討する。また、他の事業体が行っている協働事例を学ぶ。どんな課題意識があるか共有する。	3名
	2月7日(火)	進捗の確認、情報共有、今後のスケジュール確認	【第8回協働定例会】 場所:筑北村竹ノ下公民館 ◆目的:成果報告に向けた、最終的な各担当からの報告。今後の展開について、共有。	8名
	2月18日(火)	全国の事例につき学び、気付きを得る。	【合同報告会】 場所:ベルサール新宿 ◆目的:各事例の紹介と、意見交換を経て、自分たちの事業の参考にする。	3名
協働取組を進める上で留意事項、新たな課題や計画外の事柄等	◆次年度に向けた計画作り ◆次年度事業の応募に向けた、主体の形をどうするか検討			
メディア掲載(掲載日、掲載紙面、見出し等)	<input type="checkbox"/> 新聞・雑誌・広報誌			
	<input type="checkbox"/> テレビ・ラジオ			
	<input type="checkbox"/> Webメディア・その他			
支援事務局への要望	<input type="checkbox"/> 情報提供			
	<input type="checkbox"/> マネジメント機能の強化			
	<input type="checkbox"/> その他			

<p>中期計画シート(概要版) ①事業の全体構成</p>	<p>事業名: 筑北村東条地区における里山交流促進計画</p>	<p>記入者: 株式会社柳沢林業 (担当: 原・藤澤)</p>	<p>記入日: 平成29年1月31日</p>
<p>①この取組がどうしても必要なのか ☆現在表面化している問題はなにか</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 山林の荒廃(材木価値低下、物理的な危険) 2. 生活者の山林離れ(意識的・物理的) 3. 地域の里山活用の担い手不在(≒過疎化) <p>☆放置した場合にどのような問題が生じるか</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域社会の機能低下 2. 森林の多面的機能の著しい低下(里への被害) 3. 地域の生産機能の著しい低下 	<p>②この取組でどのような状況の達成を目指すか</p> <p>☆2017年度時点</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 筑北村版森林メテオカントリー(案)の可能性検討 2. 住民を主体とした新規活動主体の立上げを検討 <p>☆2018年度時点</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 森林メテオカントリー事業計画(案)の作成 & 行政へ提案 2. 新規活動主体の準備委員会の発足 <p>☆2019年度時点</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 森林メテオカントリー計画の策定・滑り出し 2. 新規活動主体の自立運営体制の発足・滑り出し  <p>④今年度末時点のステークホルダーとの関係性はどのようなものか</p> 	<p>③この取組で具体的に何をどのように行うのか</p> <p>☆2017年度時点: 先進地(長野県信濃町)の視察。保健師、福祉職員、教育関係者向けワークショップ開催。保育園・小学生向け森林体験プログラム実施。里山に手を入れるための簡易作業道作り指導講習など。</p> <p>☆2018年度時点: 森林保健活動の誘導・育成の継続。体系立てた森林メテオカントリー(案)の構築。行政へ施策提言ができる体制づくり。本事業に係る主体の確立を検討。</p> <p>☆2019年度時点: 森林保健活動の誘導・育成の継続。筑北村版森林メテオカントリー事業計画(案)の行政へ施策提言。本事業に係る新規活動主体の発足。</p> <p>⑥各ステークホルダーの個別、共通のニーズは何か</p> <p>☆【共通のニーズ】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 筑北村(地域全体)と、里山の価値見直し 2. 里山空間、森林資源の活用推進 3. 森林の多面的機能の改善・向上 <p>☆【個別ニーズ】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 健康づくり、予防医療 2. 障害の療育・リハビリ・メンタルヘルス 3. 雇用の創出、就労支援 4. 製品づくり&販売＝地域の経済活動 5. 森林整備＝材木伐採・搬出の促進 <p>⑦この取組を進める上での課題は何か</p> <p>☆1. 地域住民のさらなる理解・参画</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 地域住民との対話(要望引き出し) (2) 活動運営上の協力者、キーマンの確保。 (3) 継続実施のための仕組みづくり <p>☆2. 筑北村役場から(への)支援(双方向)</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 住民・行政間の対話、中間支援の仕組み (2) 核となる人材の理解促進 (3) 村全体のメリットの検討、施策提言化 <p>⑧この取組を進める上で課題にどのように対応するか</p> <p>☆1. 地域住民の参画可能なキッカケ&場の設置</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 地域住民向け説明会&意見交換会の実施 (2) 現地ワークショップなどへの参加要請(核となる人材を先行・優先的にする点、留意。) (3) 広報活動の継続 <p>☆2. 筑北村役場との意見交換の場を設置</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 最初は、協働メンバー等を中心に議論 (2) 施策低減の「たたき台(Draft)」の段階で、意見交換の場を設け、役場サイドのニーズ・視点を傾聴する。 <p>⑨この取組をどのように継続させるか</p> <p>☆1. 地域のニーズ ≠ 主催者の計画</p> <p>⇒状況に合わせて、柔軟な計画の軌道修正。</p> <p>☆2. 少人数から開始 ⇒ 最初は対象者を絞る</p> <p>☆3. 活動の小さな評価 ⇒ 分析、データ化</p> <p>※第三者や、後から参加する人を念頭に...</p> <p>【活動の評価⇒軌道修正⇒継続調査】</p> <p>【留意点】地域内の人間関係“村社会”→新規の試みは成立しにくい傾向あり。既存枠組みと上手くMIX(やりくり、折り合い、摺合せ)</p>	

中期計画シート(概要版)②事業スケジュール							
2017年度の重点目標・事業内容		2018年度の重点目標・事業内容		2019年度の重点目標・事業内容			
4月～	7月～	10月～	1月～	4月～	7月～	10月～	1月～
【重点目標】 1. 筑北村版森林メカトロレーナー(案)の可能性検討 2. 住民を主体とした新規活動主体の立上げを検討 【事業内容】 1. 先進地(長野県信濃町)の視察。 2. 保健師、福祉職員、教育関係者向けワークショップ開催。 3. 保育園・小学生向け森林体験プログラム実施。 4. 簡易作業運作り指導講習 5. 新規活動主体の設立検討(かたちの模索) 【ツール】 地域住民向け説明会・役場との意見交換会 現地ワーク、現地調査など。		【重点目標】 1. 森林メカトロレーナー計画(案)の作成 2. 新規活動主体の自立運営体制(案)の作成 【事業内容】 1. 筑北村版森林メカトロレーナー計画の協議 2. 森林保健活動ワークショップの継続 3. 行政等へ施策提言ができる体制(案)の作成 4. 新規活動主体の発足 【ツール】 講座&ワークショップの継続、準備委員会の発足 先進地の事例を再度視察、検討。		【重点目標】 1. 筑北村版 森林メカトロレーナー計画の始動 2. 新規活動主体の自立運営体制の始動 【事業内容】 1. 筑北村版森林メカトロレーナー事業の開始 2. 森林保健活動ワークショップの継続 3. 行政等へ施策提言ができる体制 発足 4. 新規活動主体の確立&継続 【ツール】 講座&ワークショップの継続、先進事例を再視察、 全体の仕組み=体制&活動内容の改善、軌道修正。			
行動計画	2017年度	2018年度	2019年度	2017年度	2018年度	2019年度	2017年度
筑北村版森林メカトロレーナー事業可能性の検討	計画	視察	計画	評価	計画	視察	評価
関係者向け、森林保健活動ワークショップの開催	ワークショップ	ワークショップ	ワークショップ	ワークショップ	ワークショップ	ワークショップ	ワークショップ
簡易作業運作り指導講習	計画	計画	計画	評価	計画	計画	評価
新規事業主体の確立に向けた検討	案作成	案体策	案体策	評価	判断	発足準備	評価
【対話の場】住民説明会 行政意見交換会	説明会	意見交換会	意見交換会				

(資料一 4) 中期計画 (詳細版)

「平成 28 年度 地域活性化に向けた協働取組の加速化事業」

中期計画シート(詳細版)

筑北村東条地区における里山交流促進計画
—人も山も健康に 「福祉」の森プロジェクト—

平成 28 年 2 月 24 日

請負契約の受託団体の法人名	株式会社 柳沢林業
受託団体の代表者氏名	原 薫

目次

- 1 組織概要
- 2 地域の課題
- 3 協働取組の概要
- 4 3年後のゴールイメージ
- 5 3年後のステークホルダーとの関係性
- 6 2019年度(平成31年度)の目標・事業内容・スケジュール
- 7 2018年度(平成30年度)の目標・事業内容・スケジュール
- 8 2017年度(平成29年度)の目標・事業内容・スケジュール
- 9 事業実施における課題・リスクと対策

1 組織概要

法人名	株式会社 柳沢林業		代表者名	原 薫
所在地	〒390-0311 松本市水汲 1077-4		電話	0263-87-5361
			FAX	0263-87-5362
ホームページ	http://www.yanagisawa-ringyo.jp		e-mail	info@yanagisawa-ringyo.jp
組織体制	役員	4名	会員	名
	専従者	13名	ボランティア	名
	パートタイム	2名	その他()	名
	創立年	1964年	法人設立年	2012年
これまでの活動実績	<p>(株)柳沢林業は、長野県松本市で約 50 年山仕事を請け負ってきた現会長の柳沢英治の下、経験を積んだ者達が事業を継承し、法人化。創業者の意志を継ぎ、「信州・松本平の豊かな風景をつくる」を理念に掲げ、ひとや自然が調和した社会の実現を目指し林業経営を実践している。民有林における森林整備や間伐材生産、自治体・住民から依頼される伐採工事、椎茸原木・薪の製造販売を中心とした事業を展開しつつ、人と山とが生き生きとされる関わりを取り戻せるような里山活用の可能性を模索。また、地域内の林業六次産業化を目指し、連携チーム「ソマミチ」を立ち上げ、原が代表に就任している。</p>			
過去 5 年間に受けた補助金や助成金等の名称及び金額	<p>平成 25 年度 間伐等森林整備促進対策事業 8,000,000 円 平成 25 年度 信州フォレストコンダクター育成事業業務委託 495,000 円 平成 26 年度 地域材利活用倍増戦略プロジェクト事業 1,786,000 円 平成 26 年度 森林環境保全整備事業 1,127,400 円 平成 27 年度 森林環境保全整備事業 4,748,100 円 平成 28 年度 森林環境保全整備事業 10,762,500 円</p>			
事業地域	事業名	筑北村東条地区における里山交流促進計画		
	該当地域	中部地方		
	事業実施地域	長野県東筑摩郡筑北村東条地区		
事業分野	<input type="checkbox"/> 低炭素社会	<input type="checkbox"/> 循環型社会	<input checked="" type="checkbox"/> 自然共生社会	<input type="checkbox"/> その他 ()

2 地域の課題

現在表面化している問題

筑北村は、過疎化・高齢化が進み、地域の存続が危ぶまれる状態にある。かつては農作物の肥料や燃料(薪や炭材)を調達するために里山に人が入っていたが、現在は山へ行く人はほとんどいない。近年では、枯れたアカマツを中心に森林整備が進んでいるが、それ以外の森林、特に広葉樹の広がる里山は、広大な面積が放置されたままとなり、森林の持つ公益的機能が著しく低下している。裏山の荒廃は里における獣害にもつながり、高齢化により担い手も少ない農業の衰退に拍車をかけているに至る。また山林の相続では、後継者が境界を把握しておらず、森林整備はもとより森林の活用もできない状態である。

放置した場合に想定される問題

面積の 8 割以上が森林である筑北村において、森林の荒廃は村の衰退を加速させてしまう恐れがある。大半を占める急峻な山では、かつては薪炭林として短期に伐採されていた樹木が成長し過ぎており、倒木が多く発生している。これを放置し続けた場合、山地崩壊による里山住民への危険性が高まることが予測される。産業の中心が農業であることを考えると、裏山である里山の荒廃は住環境を悪化させ、過疎化を加速させる。加えて人の関与によって保たれてきた里山における生物多様性も乏しいものとなっていく。

該当地域の社会的・地域的背景

平成 17 年に 3 村が合併して筑北村になったものの、過疎化・高齢化には歯止めはかからず、農業以外の目立った産業は生まれていない。一方で、山々に囲まれた地域ながら、高速道路・JR が通り、周辺市街地とのアクセスは比較的良好。昔ながらの「村の原風景」も残っており、近年はその風景や生活を求め移住者が増加傾向にある。また、高齢者や子どもを含めた相互扶助精神が強く、都市部で失われた地域機能を残す。2010 年に村で初めて、障がい者の活動の場が整備され 2014 年より地域住民有志が、障がいや重い病気を患う子どもと家族の旅行をサポートする取り組みが始まり、山林や農地という地域資源と福祉の融合、住民協働を模索され、徐々に理解が得られる状態に近づいている。

地方公共団体の政策課題等との関係性

筑北村は地方創生交付金を活用した木質バイオマス循環自立創生事業に着手している。筑北地域の森林資源を有効活用することで、地域防災力、エネルギー自給率を高めること、また地域内雇用を創出し、障がい者の就労支援も目指していくことが目的であり、今回の事業との関連は深い。

3 協働取組の概要

協働取組の目的とテーマ

- 筑北村の豊かな自然環境の価値を見直し、森林と人との共生関係の再構築を通じて、里山を中心とした山村の暮らしを再生することを目指す。
- 自然環境に触れることを望む「地域住民」を軸として、地域の声に耳を傾けながら、各領域の専門家(保健師、福祉職員、教育関係者など)に森林保健活動・森林療法のメソッドを普及し、多様な立場の人々が関われる森林の創出を目指す。これを通じて、地域の人々の健康促進・予防医療、若者や障がい者の就労支援、都市と山村住民との交流、林業と福祉の連携模索などのきっかけを創出していく。

課題解決に向けたアイデアと協働プロセス

- 現在、本村では、里山の活用・交流促進についての関係者が協議する場として、協働定例会を開催している。これを発展させ、今後は、協働主体として、筑北村森林メディカルトレーナー推進協議会(仮)のような、関係者が個別・団体を問わず参加しやすい体制を整備していきたい。
- 行政と、個々の地域住民との橋渡し(中間支援)の役割として、同協議会を機能させるとともに、最終的には、行政への施策提言ができる主体の確立を目指した体制を整備していきたい。

ステークホルダーのニーズとの整合性

- 筑北村と住民たちが、魅力ある地域を創造しつつ、里山との関わりを取り戻す。また、里山の活用・交流促進を契機に、里山に新たな社会的価値を付加したい。
- 老若男女を問わず、気軽に里山を散策し、軽作業で汗を流し山の恵みを得て、心身健康となるよう、空間や人のネットワーク構築を目指している。地域住民を軸に、各領域の専門家と協働して農林業の新たな可能性を見出すとともに、村の資源を大いに活用した産業づくりに貢献したいと考えている。

継続のポイント

- 地域住民のさらなる理解・参画が必要と考えている。地域住民との対話(要望引き出し、受け止め)を十分に行い、活動運営上の協力者、核となる人材の確保(各領域の専門家(保健師、福祉職員、教育関係者など)との関係構築が、ポイント。
- 筑北村役場(行政)からの支援・村役場への支援(双方向)が、不可欠と考えている。上記地域住民と同様、対話を重ね、行政の性質上の得意・不得意分野を見極め、村として納得のいく切り口で提案・働きかけを、行っていきたい。

4 3年後のゴールイメージ

2019年度(平成31年度)のゴールはどこか(最高の状態)

- 筑北村に「森林保健活動」の先進地としての可能性を見出し、東京農業大学の上原教授によるワークショップの継続開催により、村の各領域の専門家に森林保健活動の趣旨が広く行き渡り、自発的な活動へ発展した状態となる。
- 本事業に係る新規活動主体(筑北村森林メディカルトレーナー推進協議会(仮))が、設立し、主催者かつ、中間支援団体としての機能をもった主体となる。

2019年度(平成31年度)のゴールはどこか(望ましい状態)

- 筑北村に「森林保健活動」の先進地としての可能性を見出し、東京農業大学の上原教授によるワークショップを随時開催により、村の各領域の専門家に本活動の趣旨が行き渡り、今後の活動への指針が出来た状態となる。
- 本事業に係る新規活動主体(筑北村森林メディカルトレーナー推進協議会(仮))が、検討され、個別・団体を問わず、意欲的な参加者を受け入れ体制が整う。

2019年度(平成31年度)のゴールはどこか(確実に達成する状態)

- 筑北村に「森林保健活動」の先進地としての可能性を見出し、東京農業大学の上原教授によるワークショップが随時開催され、村の各領域の専門家と、次の活動に向けた議論が進められる状態となる。
- 本事業に係る新規活動主体(筑北村森林メディカルトレーナー推進協議会(仮))が、検討され、個別・団体を問わず、本活動に意欲的な参加者と接点を持てるには、どうしたらよいか、議論が出来る状態となる。

事業の結果を測る指標(アウトプット)

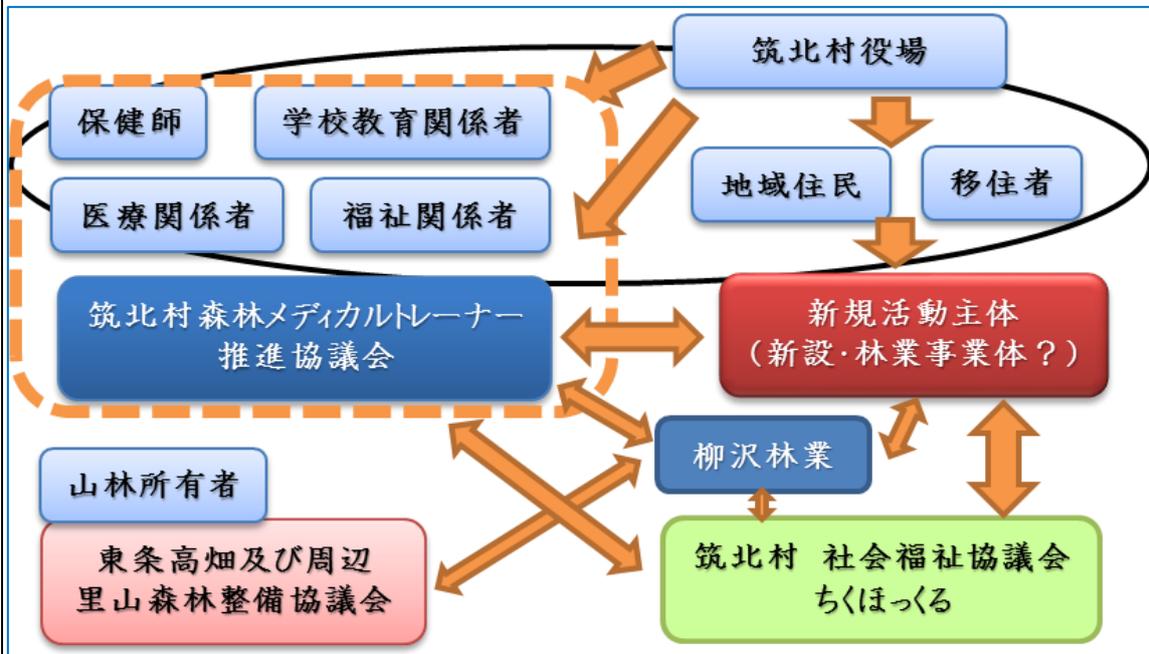
- 保健師、福祉職員、教育関係者向け森林療法ワークショップの実施、趣旨の定着
- 先進地(長野県信濃町)「森林メディカルトレーナー」事業の視察、事例からの学び
- 里山に手を入れるための簡易作業道作りの指導講習の実施 対象地のアクセス改善
- 簡易作業道作りにおける筑北村への支援要請 行政の参画、意識改善

事業の効果を測る指標(アウトカム)

- ワークショップの参加者からの評価(アンケート等による)
- 地域住民、村の各領域の専門家の参加人数
- 講習、視察などの気付きから作成した、森林ワークショップ(プログラム)のメニュー数
- 簡易作業道作りのプログラム(メソッド)確立

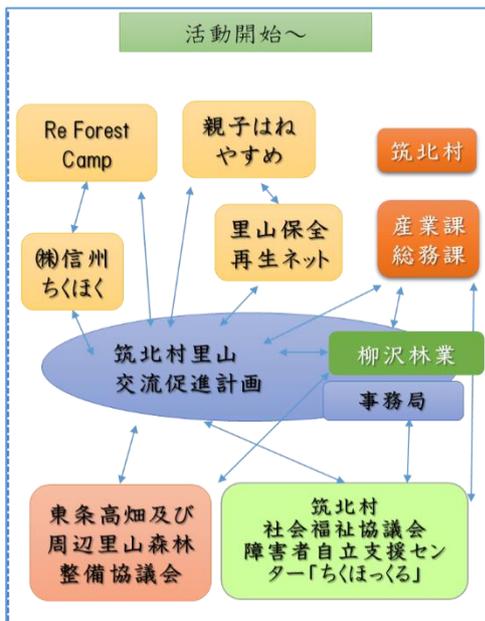
5 3年後のステークホルダーとの関係性

■ 筑北村内にいる多様な領域の専門家の連携と、新規活動主体の確立



【参考】

■ 本年度事業開始時点の関係図



■ 今後の活動の発展イメージ図



6 2019年度(平成31年度)の目標・事業内容・スケジュール

2019年度(平成31年度)の目標

- 筑北村に「森林保健活動」の先進地としての可能性を見出す。
- 村の各領域の専門家に「森林保健活動」の趣旨を広める。
- 活動フィールドへのアクセス改善のため、簡易林道を作設または補修する。
- 本事業に係る新規活動主体(筑北村森林メディカルトレーナー推進協議会(仮))が、設立する。

目標を達成するための事業内容

- 信濃町にて、森林メディカルトレーナー事業の視察を行う。
- 東京農業大学の上原教授によるワークショップを継続的に開催する。
- 筑北村(行政)の支援を受けつつ、簡易作業道作り講習会を開催する。
- 新規活動主体設置に向けた検討会を開催する。

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
キックオフMTG 				定例会 		定例会 		定例会 		定例会 	
	新規主体 検討部会 	→					新規主体 発足会 				
森林ワークショップ定期的開催											
簡易林道作り講習会の定期開催											

7 2018年度(平成30年度)の目標・事業内容・スケジュール

2018年度(平成30年度)の目標

- 引き続き、筑北村での「森林保健活動」普及のため、先進地事例を研究し、行政への施策提言へとつなげる。
- 村の各領域の専門家と連携、継続して「森林保健活動」普及活動に取り組む。
- 活動フィールドへのアクセス改善のため、簡易林道を作設または補修する。
- 本事業に係る新規活動主体(筑北村森林メディカルトレーナー推進協議会(仮))が継続活動となるよう仕組み作りをする。

目標を達成するための事業内容

- 長野県内外の森林保健活動の先進地にて、事業の視察を行う。
- 東京農業大学の上原教授による、ワークショップを継続的に開催する。
- 筑北村(行政)の支援を受けつつ、簡易作業道作り講習会を開催する。
- 新規活動主体の部会において、施策提言案をとりまとめる。

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
キックオフMTG 				定例会 		定例会 		定例会 		定例会 	
推進協議会キックオフ 	→					行政への施策提言案のまとめ 					
森林ワークショップ定期的開催											
簡易林道作り講習会の定期開催											

8 2017年度(平成29年度)の目標・事業内容・スケジュール

2017年度(平成29年度)の目標

- 先進地視察からの気付き・学びを活かし、行政ならびに筑北村全体への「森林保健活動」の普及を図る。
- 村の各領域の専門家と連携、継続して「森林保健活動」普及活動に取り組む。
- 活動フィールドへのアクセス改善のため、簡易林道を作設または補修プログラムを確立する。
- 本事業に係る新規活動主体(筑北村森林メディカルトレーナー推進協議会(仮))が、継続活動となるよう仕組み作りをする。

目標を達成するための事業内容

- 森林保健活動普及のためのイベントを開催する。
- 行政職員向けの森林保健活動プログラムを実施する。
- 東京農業大学の上原教授による、ワークショップを継続的に開催する。
- 筑北村(行政)の支援を受けつつ、簡易作業道作り講習会を開催する。
- 村の各領域の専門家ごとか、あるいは専門家集団の連携により、村内に、森林保健活動の実践・普及チームを確立する。

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
キックオフMTG 				定例会 		定例会 		定例会 		定例会 	
イベント開催チーム発足 	→					イベント開催 					
森林ワークショップ定期的に開催											
簡易林道作り講習会の定期開催											

9 事業実施における課題・リスクと対策

分類	課題・リスク	対策
人員	<ul style="list-style-type: none"> ●森林保健活動の担い手となる村の各領域の専門家(保健師など)との接触は、これからであり、人柄や人材養成が上手くいくか未知数。 ●新規活動主体の事務局(運営)を誰が担うか(担うことができるか)、不確定。 	<ul style="list-style-type: none"> ●行政担当者や、社会福祉協議会など、これまで協働取組に参加していた関係者を通じて、適材適所になるよう検討を行う。 ●行政担当者や、社会福祉協議会などと連携して、検討する。講師からの助言や、先進地事例を参考にする。
財政	<ul style="list-style-type: none"> ●講師謝金や、先進地視察の出張旅費、会議運営のための人件費・管理費が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ●行政からの支援を受けられるよう体制作り、先進地の事例を参考にする。 ●ワークショップや、イベント、講演などの際に、参加費の徴収も検討する。
法・制度	<ul style="list-style-type: none"> ●活動対象地の土地利用に関する承諾が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ●個別、集団いずれも説明の機会を随時設けることで、対応する。

第一回 協働定例会 議事メモ

1. 日時	2016年7月27日(火) 16:00~18:15
2. 場所	筑北村竹ノ下公民館
3. 参加者	1.東条高畑及び周辺里山森林整備協議会 ①橋本定治(会長)、②米山豊(副会長)、③橋本正義(副会長)、④中村嘉孝(会計)、⑤橋本逸士(事務局) 2.里山保全再生ネットワーク 3.親子はねやすめ ⑥岩間敏彦(2代表理事/3 理事) 4.株式会社信州ちくほく ⑦沖村智(代表取締役) 5.筑北村社会福祉協議会(ちくほくくる) ⑧和栗剛(施設長)、⑨滝澤正也(主任) 6.筑北村総務課 ⑩宇都章吾、筑北村産業課 ⑪宮島卓也(主事) 7.柳沢林業 ⑫原薫(代表取締役)、⑬藤澤良太(事務局) 8.環境省中部環境パートナーシップオフィス ⑭高村美也子(アドバイザー) (敬称略、以上14名)
4. 議事	<p>1. 取り組み概要について</p> <p>事務局より、当委託事業の採択(5月下旬)から仕様書の起草・確定までの経緯を大まかに説明がなされた。また、仕様書の確定内容および取り組みイメージについて、共有した。</p> <p>【確定事項と取り組みイメージ】</p> <p>(1) 年に5回以上の協働定例会の開催</p> <p>→協働取組のプロセスを残し、今後に活用することが本委託事業の肝になっているので、会合が重視されている由。</p> <p>(2) 里山現況調査と目標林型の提示</p> <p>→山仕事創造舎(山川草木)/代表の香山氏と調整予定。</p> <p>(3) 簡易路網の整備と、バイオトイレ水回り環境の調査</p> <p>→簡易路網の整備は、坪川林道※を想定している。本計画の進行にあたっては、道の路面状況・水はけ、周囲の草木の繁殖など整備が必要と思われる。協議会から、役場に要望を伝えている。(※村の書類上の区分は、一時的な利用を目的とした「作業道」。役場としては、将来的な利用方法・必要性をふまえ、今後検討したいとのこと。方向性としては、路面補修の材料費(地固め用の砕石等)の工面が考えられるとのこと。なお、村では、バックホー(重機)を所有しており、貸し出しが可能か(使用目的制限などの条件等)も合わせて確認いただくこととした。当会でも工事者や、作業範囲(どの程度の補修とするか)を検討する。</p> <p>→バイオトイレ水回り環境の調査は、ReForestCamp/石田代表に依頼予定</p> <p>(4) 心身障がい児受け入れに向けた最低限の空間整備(林間、遊歩道等の整備)と、専門家による方針の提案</p> <p>→東京農業大学/上原氏に調査・提案依頼予定</p> <p>→空間整備は、林間・遊歩道等の軽作業程度で行えるものを想定している。</p> <p>(5) 障がい児向け木製遊具の試作</p> <p>→柳澤木工に木馬の製作を依頼予定。なお、村内の木工職人(村のホームページ「ほくほくちくほく」参照のこと)についても、今後取り組みへの参加を呼びかける案が出た。今後検討する。</p> <p>(6) 里山フォーラムの開催</p>

	<p>→仮の予定として、本年 10/29(土)、10/30(日)のいずれかの日程で調整することとした。筑北村産業課/総務課の方で、村のイベント等と重なっていないか確認いただくこととした。</p> <p>→内容としては、午前：山林見学&レクチャー、午後：講演などが考えられているが、詳細未定。ワークショップとして、簡単な木工（木のスプーン製作等）を行うという案がでた。今後検討する。役場(総務課/宇都氏)より、村の広報や、場所の提供といった形で、側面支援も検討したい旨、申し出があった。今後は是非協力をお願いしたい旨、事務局からお伝えした。</p> <p>(7) レスパイト団体のイベントへの参画と、周知広報用リーフレット作成</p> <p>→イベント参画については、岩間氏にご調整いただき、本年 9/25(日)（安曇野市穂高）にて、予定されている。情報が固まってきた段階で、再度案内いただくこととなった。協働メンバーで村からマイクロバスを借りる案が出た。役場の方での貸し出し可能か確認が必要。今後検討する。リーフレット作成にあたっては、今後、取材・ヒアリングなどで協働メンバーにも協力をお願いしたいとのこと。</p> <p>【その他】</p> <p>筑北村総務課(宇都氏)より、この取り組みを、東条地区に留めずに、村全体のモデルケースという視点で考えていきたいとのことのご意見があった。当会としては、勿論、ご意見に全面的に同意するところなので、今後の活動の中で、東条地区や旧・本城村の住民の方だけではなく、広く、広報誌・HP・村内放送などの PR 活動もさせていただきたい旨、お伝えした。</p> <p>2. 役割分担 (案) について</p> <p>事務局より、大まかな役割分担を提示したところ、会のメンバーから特に異論はなかった。今後の進行の中で、役割に変更等が生じれば、柔軟に対応していきたい。</p> <p>3. 本事業のスケジュール案について</p> <p>事業期間が約 7 か月と短期間のため、各役割と実施内容に応じて、適宜活動をスタートすることとした。最初の時間的区切りとしては、10 月最終週に予定とした「里山フォーラム」に向けて、各取り組みを進めることとした。活動のきっかけ作り・調整は、事務局（柳沢林業）で行うものとし、別途個別に連絡を取り合いながら進めることとした。</p> <p>4. その他</p> <p>(1) メーリングリスト：会の合意を得て、作成することとなった（済）。</p> <p>(2) ヒアリング日程：8/29(月)午後(公民館)2 団体、8/30(火)午前(公民館)3 団体（午後、第 2 回定例会）1 団体 1 時間目安。日程変更・調整の可能性あり。※詳細については、お早めに、再度 EPO 中部より連絡いただくこととした。※なお、候補日のうち、8/29.9/2,9/5 は、筑北村(産業課・総務課)は、不可とのこと。</p>
5 . 次 回 定 例 会	<p>2016 年 8 月 30 日 (火) 13:30~15:00 (仮)</p> <p>↑ ヒアリング日程の調整出来次第なので、未確定です。</p>

第二回 協働定例会 議事メモ

1. 日時	2016年8月30日(火) 15:00~17:00
2. 場所	筑北村竹ノ下公民館
3. 参加者	1.東条高畑及び周辺里山森林整備協議会 ①橋本定治(会長)、②米山豊(副会長)、③橋本正義(副会長)、④橋本逸士(事務局) 2.里山保全再生ネットワーク 3.親子はねやすめ ⑤岩間敏彦(代表理事/3 理事) 4.株式会社信州ちくほく ⑥沖村智(代表取締役) 5.Re Forest Camp ⑦石田武(代表) 5.筑北村社会福祉協議会(ちくほくくる) ⑧和栗剛(施設長)、⑨滝澤正也(主任) 6.筑北村産業課 ⑩鎌田(主査)、総務課⑪宇都章吾 7.柳沢林業 ⑫原薫(代表取締役)、⑬藤澤良太(事務局) 8.環境省中部環境パートナーシップオフィス ⑭新海洋子(チーフ・プロデューサー)、⑮高村美也子(アドバイザー) (敬称略、以上15名)
4. 議事	<p>1. 各議題について</p> <p>事務局と各担当より、進捗状況の報告・調整等が行われた。</p> <p>(8) 里山フォーラム日程調整の件</p> <p>日程調整の結果、次の日程で実施することとなった。</p> <p>本年10月15日(土) 会場：筑北村 伝承館 ※会場については、ちくほくくる/和栗様に管理人の方と調整頂いた。9月中旬に、使用に関して最終承認頂けること(尚、使用料は無料)。また、日程をお知らせすれば事前の下見(鍵を借りる)も可能とのこと。</p> <p>会議中と後日出たアイデアも含め、現在、フォーラムの内容については、メンバー内で折り合わせ中である。</p> <p>(9) 目標林型の提示に向けた調査(山見)の件</p> <p>香山さん(山仕事創造舎代表)と、植生の現況調査(山見)を行う。</p> <p>● 9月13日(火) 9:00 竹之下公民館 集合</p> <p>【持ち物】昼食、飲み物、長袖、長ズボン、山歩きができる靴等、雨具(天気が怪しいとき)、筆記用具、手板(クリップボード)、カメラ(必要な方)【持ってる方】地図、手鋸、ヘルメット※筑北村総務課/宇都様に周旋頂き、地域おこし協力隊大場鈴子(おおばすずこ)様・飯田智子(いいださとこ)様、木工作家福田正隆様も参加頂くこととなった。</p> <p>● バイオトイレ水回り環境の調査</p> <p>⇒ Re Forest Camp/石田様より、同日の午前・午後いずれかで水源調査を実施したい旨、ご要望があった。事務局としては、山見のメンバー(全体)とは、別行動で水源に案内できる人と、事務局1名が業者の方を案内・同行して調査を行うことができると考えている。</p> <p>(10) 里山空間の整備に向けた調査(山見)の件</p> <p>上原先生(東京農業大学教授)と、里山空間の現況調査(山見)を行う。</p> <p>● 9月20日(火) 10:45 竹之下公民館 集合 【持ち物】同上</p>

	<p>(1 1) ほっとくらぶイベントの件</p> <p>9/25(日) 12:30 開場・13:30 開演 安曇野市礫山公園研成ホール</p> <p>→詳細別紙参照。参加申し込み不要。協働メンバーの皆様は、是非ご参加いただきたい由。</p> <p>(1 2) 木製遊具の試作の進捗の件</p> <p>●里山活用方法の1つとして、長野県産材（間伐材）を使った木製遊具を試作する。今回、試作段階で用いる樹木は、東条地域で採ったものではないが、今後東条地域で採ったもので、木製製品を試作することも検討する。</p> <p>なお、試作協力してくれる柳澤木工については、当コンセプトに賛同いただきデザイン料は無償として頂いている。試作品のイメージについては、近日中に写真や現物にて、協働メンバーと共有することとした。</p> <p>●施設とのやり取りでは、親子はねやすめ／岩間様にご調整頂いているところ。施設については、①ほわわ吾妻橋（東京）、②あずみの養護学校とのやり取りをしている。</p> <p>(1 3) 簡易路網の整備計画について</p> <p>●筑北村産業課より、次の点につき、ご報告いただいた。</p> <p>①バックホー（重機）の貸出については、前向きに検討しており、予約をとって然るべき申請をしてもらえれば、村長決裁で貸出可能とのこと。（使用料は、目的を考慮し、負担無い方向で検討しているとのこと）</p> <p>②地固め用の砕石等の工面については、例年地元の方へ5～6万円程度の補助を行っているので、同程度で考えているとのこと。</p> <p>作業内容、作業者、作業時期については、引き続き検討することとした。</p> <p>2. その他</p> <p>本城地域在住の木工作家の福田さんについて</p> <p>● 里山フォーラム内で、木のおもちゃ作りワークショップを行う案が出ており、開催可否は置いて、一度お話が出ている旨、筑北村総務課／宇都様より、お伝えいただいた。木工ワークショップは経験済みとのこと、実施について前向きに検討して頂けるとのこと。また、木工作家の仲間にも話をしてみたいとのこと。別の機会にワークショップをやる場合も協力は得られそうとのこと。</p> <p>● 山見にも参加いただけたとのこと。上述のとおり。</p>
5 . 次 回 定 例 会	2016年9月20日（火）16:00～17:30 @竹之下公民館

第三回 協働定例会 議事メモ

1.	2016年9月20日(火) 15:00~17:00 筑北村竹ノ下公民館
2. 参 加 者	<p>1.東条高畑及び周辺里山森林整備協議会 ①橋本定治(会長)、②米山豊(副会長)、③橋本正義(副会長)、④中村嘉孝(会計)、⑤橋本逸士(事務局) 2.里山保全再生ネットワーク 3.親子はねやすめ ⑥岩間敏彦(2代表理事/3理事) 4.株式会社信州ちくほく 5.Re Forest Camp ⑦石田武(4.副社長/5.代表) 5.筑北村社会福祉協議会(ちくほくくる) ⑧和栗剛(施設長)、⑨滝澤正也(主任) 6.筑北村 産業課⑩宮島卓也、総務課⑪宇都章吾、企画財政課地域おこし協力隊⑫飯田智子 7.山仕事創造舎(山川草木) ⑬香山由人(代表) 8.柳沢林業⑭原薫(代表取締役)、⑮大瀧秀明(取締役)、⑯若林悠平(薪担当)、⑰藤澤良太(事務局) 9.環境省中部環境パートナーシップオフィス ⑱新海洋子(チーフ・リポーター)、⑲高村美也子(アドバイザー)(敬称略、以上19名)</p>
3. 議 事	<p>1. 里山空間の整備に向けた調査(山見)の件</p> <p>本定例会当日は、雨天であったものの、午前中(10:45~1300)上原先生(東京農業大学教授)と里山空間の現況調査、午後(14:15~15:00)公民館で森林療法等取り組み紹介頂いた。</p> <p>【上原先生コメント メモ①】 ★★山見にて★★</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ むかしの道型(古道)や、広いスペース、斜面の緩急、ツルが多くあるところ、森林療法に使えるような場所がいろいろある。例えば、ピンクテープで作業エリアを5m四方で囲って、枝拾い・倒木の片づけ・簡単な除間伐をすると、軽作業になり、森林としても見通しが良くなる。「桑の木(やまぐわ)」が多いので、これを使うと面白いかもしれない。クワ茶として飲むのもよし、桑の実を食べるのもよし。木工材料としても。 <p>【上原先生コメント メモ②】 ★★室内レクチャーにて★★</p> <ul style="list-style-type: none"> ➤ 森林を広範囲に整備しようと考えると、心理的・物理的に難しくなってしまう。 ➤ 「環境の構造化」という考え方。例えば、ピンクテープなどを使って今日これからやる作業エリアを設定。小さく設定し、片付いた場所と周りを比べて一目瞭然で綺麗になったことが確認でき、そこにやりがいが出てくる。林内の原木を片づける作業も、実はすごく複雑な技術を要する。(傾斜地の足元のバランス、林内に散らばる石・枝、立っている木、前方・後方の持つ人の呼吸合わせ、どのコースをたどるか etc...) 認知機能のリハビリとなる。障害行動・異常行動(アブノーマル・ビヘイビア=abnormal behavior)を起こしてしまう人も、作業や森林散策を経て、精神的安定の効果がでる。コツは「よくばらないこと」(小さい面積で、少人数で)山の手入れ、落ち葉集め、林地残材を薪材に、きのこ原木の駒うち作業、遊歩道整備、階段づくり、カウンセリング空間づくり、コースター作り、ネームプレート、芳香蒸留水づくりなど作業の種類はいろいろ。 ➤ 地域の市民が活動できる里山にしていく取り組み事例もある。福祉の活動を通じて一番変わったのは、実は地域市民(福祉活動への肯定感)疲れた役場の人たちや、学校の先生などなども元気になっていく。森林は、「無言の受容環境」。歩き、触り、関わるだけで、効果が認められる。 ➤ 根こぎで倒れた木の跡は、地形の窪みができているので、片づけて、丸太を並べるだけで、カウンセリング空間(休憩所)のように使うこともできる。

【上原先生コメント メモ③】★★取り組みを進めるにあたって★★

➤ 県内でもいろいろなところで事例ある。筑北村の里山でも勿論取り組み可能。ポイントは、対象者がどういうことを必要としているか（ニーズ） Before After がわかるよう、作業前に林内を評価しておく方法もある。作業者ストレスチェック。森林と接することの効果の可視化が出来るると良い。対象者のできること（やりたいこと）によって、取り組みの難易度（レベル）を考える。選択肢は様々。**【上原先生 実験（おまけ）】** 上原先生が実験した材料・・・スキ、ヒノキ、カマツ、アブラチャン(ススキ科カモシガ属)、ダンコウバイ、ネズミサシ、サヲ、ウミズサクラ、サシヨウ、イタヤカエデ。

2. 里山フォーラム案について

■ **対象者について** 関係者のみとするか、障害を持った方に福祉活動をトライアル頂くか、議論された。ただし、日取りが、安曇野養護学校のイベントと重なっており、数人(候補者)の参加が難しいとのこと。今回は、第一ステップとして、関係者や地域住民による理解を深める場を主眼に捉えるのが、良いのでは、という意見が出た。

■ **会場（伝承館）について**

講演会を行う会場の定員は、頑張って50名程度とのこと。館内の掃除と、敷地内の草刈りが必要。（テント設営、駐車場スペース、お昼の会場に使用）

■ **パネル展示について**

岩間さん・石田さんより、活動紹介パネル展示を用意いただくことになった。設置場所は、要検討。

➔ **会場の使い方と現況チェックのため、視察要。**

■ **朝さんぽ・木工ワークショップについて**

内容を詰め込み過ぎないように、今回は、別の機会に見送ることとした。

■ **事業説明の機会**

関係者や地域の方の理解を深めるため、取り組み紹介を行うこととした。

その際に、香山さんをお招きして、説明いただくことも検討する。

■ **豚汁・焼き芋・新米おにぎりの提供** 石田さんの方でご準備いただけることとなった。

■ **広報関係について**

チラシは、岩間さんにご担当いただくこととなった。医療・福祉関係・村内での参加予定者への声掛けは、岩間さん、和栗さん、宇都さんらにお願いする方向となった。協議会（山林所有者やそのご家族・奥様）についてもなるべく参加頂きたいが、別途、橋本会長と相談する。取材関係（市民タイム等）は、事務局から連絡することとした。

■ **上原先生との当日詳細** 事務局の方で、とりまとめて、当日の内容を詰めることとした。

3. その他 今後、どういう山を目指すか、最終的なイメージ・方向性を探るべき、現状わからない、という意見が出た。→イベントと並行して、今後の継続課題としたい。地域の方には、少しずつご理解を得られるよう取り組んでいきたい。

4.

2016年10月5日（水）15:30～17:00 @竹之下公民館

議題（予定）： 里山フォーラム前・最終調整

第四回 協働定例会 議事メモ

1. 日時	2016年10月5日(水) 15:30~17:00 筑北村竹ノ下公民館			
2. 参加者	1.東条高畑及び周辺里山森林整備協議会①橋本定治(会長)、②橋本正義(副会長)、③中村嘉孝(会計) 2.里山保全再生ネットワーク 3.親子はねやすめ ④岩間敏彦(2代表理事/3理事) 4.株式会社信州ちくほく 5.Re Forest Camp ⑤石田武(4.副社長/5.代表) 5.筑北村社会福祉協議会(ちくほくく) ⑥和栗剛(施設長)、6.筑北村 産業課⑦宮島卓也、企画財政課地域おこし協力隊⑧飯田智子 7.柳沢林業⑨原薫(代表取締役)、⑩藤澤良太(事務局) 8.環境省中部環境ハートアップオフィス ⑪高村美也子(アドバイザー) (敬称略、以上11名)			
3. 議事	<p>1. 里山フォーラム準備 進捗状況の件</p> <p>参加メンバーにて、以下の確認を行った。</p> <p>★ 参加申し込み状況 (午前の部：20名前後、午後の部：30名前後) ※当時</p> <p>★ 村内放送</p> <p>予定通り、10/7(金)夜,8(土)昼・夜,9(日)夜にそれぞれ実施頂いた。</p> <p>内容は、イベント日時、申し込み先(窓口：総務課)、交通手段の諸注意(駐車スペース関係上、なるべく徒歩・公共交通機関の利用を呼びかけ)など。</p> <p>(役場での実施手続き・決裁手配は、<u>役場総務課/宇都さん</u>に実行頂いた。)</p> <p>★ 広報関係</p> <p>松本平タウン情報：事務局より記事掲載を依頼。</p> <p style="padding-left: 40px;">橋本会長、原さんインタビュー。イベント前に掲載予定。</p> <p>信濃毎日新聞：事務局より記事掲載を依頼(未確定)。</p> <p style="padding-left: 40px;">原さんインタビュー。※イベント前日に掲載された。</p> <p>市民タイムス：事務局より記事掲載を依頼。(未確定)。</p> <p style="padding-left: 40px;">※当日取材のうえ、イベント次の日に掲載された。</p> <p>★ 設営関係(備品)</p> <p>①パイプ椅子(60台)：役場多目的ホールより拝借。</p> <p>②持ち運びマイク、スクリーン、プロジェクター：役場より拝借。</p> <p>③黒板・チョーク：黒板は伝承館2Fから1Fへ。チョークは事務局が持参。</p> <p>【椅子等の搬出・搬入】前日15:00~16:00に、事務局と宇都さんで実施。</p> <p>【返却】イベント当日の終了後、元の場所へ返却。</p> <p>(役場での貸出手続きは、<u>役場総務課/宇都さん</u>に実行頂いた。)</p> <p>※本定例会後に、追加準備したもの</p> <p>～上原先生(森林療法 現地ワークショップ)関係～</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 60%; vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> ① 携帯のガスコンロ ② おなべ ③ ガラスコップ 5～6個 ④ アルミホイル </td> <td style="width: 5%; vertical-align: middle; text-align: center;">}</td> <td style="width: 35%; text-align: center; vertical-align: middle;">2セット</td> </tr> </table>	<ul style="list-style-type: none"> ① 携帯のガスコンロ ② おなべ ③ ガラスコップ 5～6個 ④ アルミホイル 	}	2セット
<ul style="list-style-type: none"> ① 携帯のガスコンロ ② おなべ ③ ガラスコップ 5～6個 ④ アルミホイル 	}	2セット		

⑤ 剪定ばさみ

(コップは、伝承館の物品から拝借。他は、柳沢林業で準備・持参。)

⑥ 芳香蒸留水用 100 円スプレー容器

⑦ 血圧計、アミラーゼ計測機器

(上原先生にご持参いただくよう、お願いした。)

★ 会場周辺

①伝承館の施錠管理 : 当日及び前日までの保管は、協議会/中村さん。

②館内・外(簡単な草刈り)清掃 : 9/29(AM)事務局で実施。

③駐車スペース : 伝承館に最大 20 台駐車可。近くの「一之瀬林業」の駐車スペースも拝借することに。(協議会/橋本会長より依頼・承諾いただいた。)

④誘導看板 : 会場まで目印が少ないので、工事看板にイベント案内・誘導表示をしたものを3台、事務局で準備し、当日設置することとした。

★ 移動手段 (伝承館⇄山土場・現地ワークショップ)

ハイエース (2台) : ちくほつくる/和栗さんから、手配申出て頂き、拝借する。

他は、役場1台、EPO1台、事務局(柳沢林業)1台に、参加者を配車予定。

★ お昼の部 (昼食準備)

Re Forest Camp/石田さん、関崎さんと 10/10 夕方、打合せ予定。

・後日打合せにより、食材 (お米、おにぎり用ふりかけ、汁物の具材)、炊飯器鍋窯、調理器具、簡易テント、テーブル、お皿等々を準備頂くこととした。

・伝承館のキッチンが手狭なので、仕込みは、竹ノ下公民館で行い、準備整次次第、伝承館の敷地で食事提供の準備をする、段取りとした。

・手伝いに来ていただけるのが、関崎さん含め3名。協議会/中村さんご夫妻もご協力いただけるとのこと。 **※本定例会後に、追加準備したもの**

(飲み物について、事務局からお茶ペットボトル×4、紙コップを持参した。)

★ 展示物関係

① 本イベント・取り組み内容紹介に係るパネル作成は、時間も少なく、まだ発表段階ではない (もう少し固めたい) ので、今回は作成無しとした。

② レスパイトパネル展示 : Re Forest Campの方でお持ちなので、伝承館会場内に展示頂くこととした。

★ 発表・現地ワーク関係

① 午前の部 (上原先生)

事前・事後の効果測定、葉っぱの芳香蒸留水づくり、環境の構造化について参加者

	<p>で体験したい旨、上原先生に要望することとした。</p> <p>② 午後の部</p> <p>取り組み紹介：事務局で発表資料作成、一般参加者でも平易に理解できるよう、写真なども用いつつ、説明することとした。</p> <p>香山氏森林講話：調査を受け、高畑の山に限らない、里山との付き合い方、捉え方を、ご説明いただくこととした。</p> <p>上原先生講演：森林療法の紹介や、先生の関わった取り組み事例、ご提案をしてもらうこととした。</p> <p>★ 当日タイムテーブル・役割分担</p> <p>当日タイムテーブル・スタッフの役割分担（会場設営・誘導など）について、事務局から詳細後日、連絡することとした。</p> <p>★ 予算関係</p> <p>人件費： 本イベント含め、この事業に取り組んだ記録について、日報管理してもらうよう、事務局よりお願いした。（支払いは年度末予定）</p> <p>委託費用・謝金など： 事務局で管理・立替払い、随時行う予定。</p> <p>実費費用： 協働メンバーで実費負担が生じる（生じた）場合は、要相談。</p> <p>事前に事務局にお知らせいただき、予算確認・領収書のやり取り等を行う。（記録の付け方については、環境省中部地方事務所／村辻さんに確認済み。）</p> <p>★ 環境省・EPO 関係の出席者について</p> <p>イベント当日は、環境省、EPO 運営委員、EPO 中部、長野県職員の参加予定がある旨連絡があった。なお、当日（午後の部）発表前に、環境省・EPO より簡単なご挨拶の言葉を頂戴することとした。</p> <p>★ 当日アンケートについて</p> <p>参加者アンケートを実施することとした。EPO の方で、聞いてもらいたい項目があるとのことだったので、事務局と打ち合わせながら作成することとした。</p> <p>3. その他</p> <p>★ ヒアリング資料について</p> <p>EPO 中部／高村さんより、ヒアリングまとめ資料が配布された。</p>
4.次回	<p>2016年11月1日（火）15:00～16:30 @竹之下公民館</p> <p>議題（予定）： 里山フォーラム当日の振り返り</p> <p>里山フォーラム参加者の感触（アンケート結果を共有）</p> <p>今後の進め方の認識合わせ（おおまかな方針の共有）</p> <p>→定例会の実施は今後どうするか</p> <p>→水源調査・バイオトイレ関係の進め方</p> <p>→路網の簡易整備について</p> <p>→木工遊具試作について など</p>

第五回 協働定例会 議事メモ

1. 日時	2016年11月1日(火) 15:00~17:00 筑北村竹ノ下公民館
2. 参加者	<p>1.東条高畑及び周辺里山森林整備協議会①橋本定治(会長)、②橋本正義(副会長)、③中村嘉孝(会計)、④橋本逸士(事務局)</p> <p>2.里山保全再生ネットワーク 3.親子はねやすめ ⑤岩間敏彦(2代表理事/3理事)</p> <p>3.筑北村社会福祉協議会(ちくほっくる) ⑥和栗剛(施設長)、⑦滝沢正也(主任)</p> <p>4.柳沢林業 ⑧原薫(代表取締役)、⑨藤澤良太(事務局)</p> <p>5.環境省中部環境パートナーシップオフィス ⑩新海洋子(チーフ・マネージャー)、⑪高村美也子(アドバイザー)</p> <p>(敬称略、以上11名)</p>
3. 議事	<p>1. 関係会合の案内</p> <p>EPO 中部より関係会合の案内いただいた。なお、参加者は、仮置きなので、確定のうえ、追って事務局から EPO 中部へ連絡することとした。詳細は、次のとおり。</p> <p>(1) 協働コーディネーター地域ブロック研究会（長野県内協働事例意見交換会）</p> <p>【内容】：「防災マップづくり」や、「一杯の味噌汁プロジェクト」といった長野県内での協働事例を紹介し合い、意見交換・情報共有を行う場。筑北村東条（本事業）についても発表を行う。</p> <p>【日時】：11月30日(水)11:00~17:00 長野市市民協働サポートセンター</p> <p>【参加者】：筑北村役場、他（※旅費及び若干の謝金は、EPO 中部より拠出）</p> <p>(2) マルチステークホルダーダイアログ</p> <p>【内容】：今年度中部地区で採択事業となっている、三重県四日市市のプロジェクトと筑北村東条（本事業）について互いに発表する。ゲストは、日本 NPO センターの方や、本事業の審査員となった方々。</p> <p>【日時】：1月20日(金) 13:00~16:30 ウィンクあいち会議室 1002・1004 (名古屋市中村区名駅 4-4-38) ※名古屋駅から徒歩2分</p> <p>【参加者】：筑北村役場、ちくほっくる、他（※旅費と若干謝金、EPO 中部から）</p> <p>(3) 第2回連絡会</p> <p>【内容】筑北村東条（本事業）について発表。課題の共有、事業の進捗確認等、本事業の審査員が参加。</p> <p>【日時】2月3日(金)14:00-16:30 地方環境事務所（名古屋）</p> <p>【参加者】岩間さん、和栗さん、原さん、他</p> <p>(4) 合同報告会</p> <p>【内容】全国の本年度採択事業が一堂に会し、本年度事業の成果と3か年の中期計画等の発表・共有を行う。</p> <p>【日時】2月18日(土) 東京（環境省主催）</p> <p>【参加者】柳沢林業、役場、他</p> <p>新海：筑北村の事例のような林業(里山)と福祉の連携模索という事例は、他には無いので、是非自慢してほしい。</p> <p>事務局・岩間：仕様書にある、本事業の PR リーフレットについては、1/20 の会合までには草案を作成し、2/3~2/18 には、完成版（印刷済み）を準備できるようにする。</p>

2. 里山フォーラム振り返り（アンケート結果参照）

当日アンケート結果について、参加者の傾向や、当日と後日の様子について、メンバーで共有した。

（1）全体として

概ね好評だった。特に、上原先生のワークショップと講演については、事例やデータ、写真などいろいろな角度からのご説明で大変わかりやすく、納得感のあるものだったという意見が多かった。その分、もっと幅広い人への宣伝 PR をしてほしいという意見もあった。

（2）今後の取り組みについて

村民の理解、住民の理解について、十分に反映することが重要という意見が参加者の中から見られた。一方で、東条の里山が、人が集まれる場所、みんなの憩いの場になるといいという意見も見られた。

（3）スタッフの意見や、参加者から聞いた感想など

岩間： 新聞での広報を見てきた参加者の親子（子供が自閉症の方）は、ほっとくらぶを紹介するご縁になった。こういった福祉の取り組みが、あるのは知っていたけど、これまで参加できずにきたということで、やはり福祉的な取り組みは、社会に求められていることだと改めて感じた。

定治： 奥さんが参加したが、良かったと聞いている。筑北村出身ではないので、初めて所有する山の近辺に入ると。午前中の実習については、時間の都合などもあって先生自ら率先して進めていたが、今後もしできるなら、自分たちでも体験してみたいと言っていた。

声かけた村議会議員も参加した。議会には、産業課から取り組みについて、報告があったと聞いている。

中村： 本当は、“村”とか“集落”の人が来てくれる雰囲気になれば良いと思う。地元の人への PR をしたり、一緒にやっていくような雰囲気になれば。当日の炊事については、石田さん・関崎さんの段取りが良かった。場慣れしているな、と思った。時間もぴったりだった。

和栗： 参加者の中で、麻績の昆虫ブリーダーが、面白い取り組みだと感心していた。その後、ちくほくくるに持ち帰ったところ、中・重度の障害者を担当しているスタッフが、週に1回ぐらい、森林療法の取り組みをしてみても良いかもと前向きに考えていた。

当日、定治さんの奥さんが松本保健福祉事務所に勤務されていたと聞いて、こんな身近なところにいらっやっったとは、と驚いた。

高村： ぜひ活動を続けてほしい。月に1回などでも。活動頻度は、そのあと調整もできるので、続けてほしい。

定治： 「なんで高畑なの？」というのを、参加者や一般の人は、知りたかったのではないか。今後聞かれるのではないか。

岩間： 条件が揃っていた、ということではないか。

新海・定治： たまたま柳沢林業が山の手入れで入った結果、福祉の切り口を発見した。地元の発想では、「畑の跡だし、こんな山…」とほうって置かれた場所だったのが、視点が変わったことで、その場所（高畑・里山）の価値が、改めて見つかった。というストーリーでは。

※ 森林療法の効果について、グラフ、上原先生に聞いてみる。

(4) 宣伝PR、ハイキングコースなど

正義： 昔から、あそこは景色が良い場所だった。
まだ1年目だし、ある程度（歩き道の整備や、空間の整備などが）できてきたら、お披露目の場を設けても良いのではないか。

岩間： 眺めの良いポイントを1つ作るのは、良いかも。

定治： もしできるのなら、高畑から尾根筋をぬけて、岩戸・立川へ出る周回コース・ハイキングコースなんかができれば、一汗かいて、そのあと温泉に入ってということも案内できる。

幅広い人へのPRというのは、今後の課題だ。

岩間： 森のわかりやすい地図・イラストを誰かに書いてもらおうと思っている。

新海： 会議前に、定治さんの方で「住民が環境を気にする」と言っていたけど、詳しく聞けますか？

定治： そんなに人をやたら入れて大丈夫か、水回り（田畑に使う）・水が汚れないかという不安を挙がりそう。

新海： 災害起きないように作業道も作っているとか、そういう説明・PRしたら良いと思う。空間整備とか森林療法（作業）についても、一緒に参加してもらえれば、「こんなことやっているよ」という宣伝になるのでは。

(5) 道づくりについて

藤澤： 坪川の道は、どんな風にして地元の方で、治していましたか？

定治： 役場に、頼んで、碎石を準備してもらい、置く場所を指定する。業者が置いてくれるので、そこで地元の衆（愛林会）の人手で碎石をならしたりした。

藤澤： 今持っているイメージでは、歩き道に丸太や杭を入れて、しっかりとしたウォーキングコースみたいなイメージがあるが…。

新海： 道づくりは、どんな道だったら、一般の人や障がいを持った方でも歩きやすいのか、聞いてみては？

和栗： 歩くことに関しては、いま柳沢林業と作業研修をしている人々は、自然な道でも大丈夫。重度の方は、里山フォーラムで登って行った道の麓（入り口）のなだらかなところだけでも、森林療法的なことで可能と思う。

岩間： 道普請隊を作りますか。

中村： 坪川道と、作業道のルートが繋がると良いと思う。急病・ケガなどの緊急時に、避難ルートとして、車両が入れる道があった方が良いと思う。
行政のバックアップ必要。

原： 参加者は、救命訓練受けても良いかな、と思った。

定治： 行政（役場）の支援を引き出すにしても、成果を上げる必要がある。

和栗： 森林療法の保険適用があるのであれば、ロケーションとしては、一番身近な医療法人松林医院（介護老人保健施設にしじょう）にお声かけするのも良いかも。

	<p>3. 本事業の進捗について</p> <p>事務局と各担当者で、仕様書に基づく、各項目の進捗を確認・共有した。</p> <p>(1) 里山の現況調査については、香山さんにレポートを出してもらう予定。 事務局で、進捗を確認する。</p> <p>(2) 簡易路網の整備と、バイオトイレ・水回り調査については、山見を行ったうえで、実施場所を確定することとした。</p> <p>【山見（今後の展開に向けて）】</p> <p>① 11月11日（金） 9：00～12：00（竹ノ下公民館集合） →白地図を準備し、道型、水場、シンボルツリー、お気に入りの場所、広場、小屋の跡など、ポイントを記入。簡易路網整備の下見も兼ねる。</p> <p>【森林療法的な（簡易的）歩き道の整備】</p> <p>② 12月 1日（木） 9：00～12：00（竹ノ下公民館集合） →歩き道の整備を行う。できれば、森林療法的なアプローチで作業を進められるよういろいろ試す。本事業メンバー以外も誘って OK 山仕事用の服装で参加のこと。（メット、手鋸は、柳沢林業で貸与可）</p> <p>(3) 木製製品の試作 11月24日に県内施設（あおぞら nobi）にて木育、工作キットなどの可能性を模索。専門家の意見を訪ねる。参加者は、岩間さん、原さん、企画・デザインで協力をお願いしている、フォーサイクルのタエナカ氏。</p>
4.次回	2016年12月1日（木）13:00～14:00 @竹之下公民館

「筑北村東条地区における里山交流促進計画」第6回協働定例会 議事録

日 時：2016年12月1日(木) 13:30～15:30

場 所：筑北村竹ノ下公民館

出席者：15名 ※敬称略

- 橋本 定治（東条高畑及び周辺里山森林整備協議会 会長）
米山 豊（東条高畑及び周辺里山森林整備協議会 副会長）
橋本 正義（東条高畑及び周辺里山森林整備協議会 副会長）
中村 嘉孝（東条高畑及び周辺里山森林整備協議会 会計）
橋本 逸士（東条高畑及び周辺里山森林整備協議会 事務局）
岩間 敏彦（NPO 法人 里山保全再生ネットワーク 代表理事・事務局長）
（親子はねやすめ 理事）
和栗 剛（筑北村社会福祉協議会 障害者自立支援センター「ちくほつくる」施設長）
滝沢 正也（筑北村社会福祉協議会 障害者自立支援センター「ちくほつくる」主任生活支援員）
宇都 章吾（筑北村役場総務課 主事）
原 薫（株式会社柳沢林業 代表取締役）
藤澤 良太（株式会社柳沢林業）
若林 悠平（株式会社柳沢林業）
新海 洋子（地方支援事務局/環境省中部環境パートナーシップオフィス チーフプロデューサー）
高橋 美穂（地方支援事務局/環境省中部環境パートナーシップオフィス コーディネーター）
高村 美也子（地方支援事務局/環境省中部環境パートナーシップオフィス コーディネーター）

【会議内容要約】

皆さんから出た「里山についてこれからやりたいこと」の提案

- ①村長による視察、②森林療法士の養成研修(上原先生に依頼)、③自然遊歩道づくり(複数のコース)、④クワの茶葉販売、⑤特用林産(キノコ栽培、販売、バーベキュー利用)、⑥村の小学校への働きかけ、⑦レスパイト受け入れ態勢の構築、⑧高畑の風景づくり、⑨季節の木の植林(サクラ、モミジ)、⑩「薬草の村」「お年寄りが元気な村」としてのイメージ作り、⑪出会いの場としての利用、⑫薬草効果、山野草の勉強、⑬トイレの設置、⑭モルルール設置、⑮林業セミナーの視察場所としての可能性

【議事詳細】※敬称略

1. お知らせ

- 1) 地域活性化に向けた協働取組の加速化事業の今後の予定

①マルチステークホルダーダイアログ 2016

日 程：2017年1月20日(金) 場所：ウインクあいち会議室

出席者：宮島卓也(筑北村役場産業課 主事)、岩間敏彦(NPO 法人 里山保全再生ネットワーク代表理事・事務局長、親子はねやすめ 理事)、原薫(株)柳沢林業 代表取締役)、藤澤良太(株)柳沢林業)

②平成 28 年地域活性化に向けた協働取組の加速化事業 第 2 回連絡会への参加の件

日 程：2016年2月3日(金) 場所：中部地方環境事務所 (名古屋市)

参加者：岩間敏彦(NPO 法人 里山保全再生ネットワーク代表理事・事務局長、親子はねやすめ 理事)、和栗剛 (筑北村社会福祉協議会 障害者自立支援センター「ちくほくる」 施設長)、原薫(株)柳沢林業 代表取締役)、藤澤良太(株)柳沢林業)

③平成 28 年度地域活性化に向けた協働取組の加速化事業報告会への参加の件

日 程：2017年2月18日(土) 場所：東京都内

参加者：岩間敏彦(NPO 法人 里山保全再生ネットワーク代表理事・事務局長、親子はねやすめ 理事)、原薫(株)柳沢林業 代表取締役)、藤澤良太(株)柳沢林業)

2) 里山保全再生ネットワーク作成のカレンダー配布 テーマ「日本の里」

3) 里山フォーラム実施記事の記載 「ホットスポット ちくほく」No.66、2016.11、筑北村、p.16～17.

2. 意見交換

テーマ：里山についてこれからやりたいこと

藤澤：宇都氏、和栗氏からの提案。上原先生が里山フォーラムで実施したような企画を指導できる**専門家**を育成したい。今年と来年にかけて、上原先生をお呼びし、5～6回に分けて研修を実施する。

上原先生がいなくても案内できる人を育成し、さらに育成された人々がほかの人々を育成して、**専門家**を増やしていく。そうすることにより、村の中で普及していくイメージができる。また、**クワ茶の最適な季節に葉を摘んで、茶葉として販売**したい。木の伐採作業は難しくても、茶摘みならできる場合がある。

宇都：筑北村の村長が「薬草で元気な村」というテーマを進めている。当事業では、村に現存する薬効のあるものを採用したい。桑茶がその一つと考えられる。「高齢になっても元気なお年寄り」という売りができるといい。

橋本(定)：昔はオオバコを採取し、乾燥させて販売していた。当時は小学校でも買い取ってくれた。

原：薬事法があるため販売は難しいが、村としての取り組みは可能だと思う。**野草の効用を勉強**するのも面白い。

藤澤：当事業は近々区切りとなる。その前に**村長を招きたい**。

宇都：村長には当事業のことを話している。山がどのように変化したかを村長に見ていただきたい。**村長の理解があると、事業が広がりやすくなる。柳沢林業の案内の下、公式に視察してもらいたい。**

藤澤：森林整備は、来週頭には区切りができる。

橋本(定)：村民は、当事業で何が行われているか理解できていない。里山利用の事例として、村民に理解してもらうことが重要である。今年度の成果について、現地で説明を聞きながら見てもらうことが大切だと思う。

藤澤：森林療法の切り口やちくほつくるによる利用は進んでいるが、レスパイトをどうつなぎ合わせるか。

岩間：現状では障がい者には行きにくい、その兄弟姉妹児のキャンプ場としては使用可能である。福祉の窓口は、つつい障がいを持つ本人に目が行きがちであるが、家族に焦点を当てることも大切である。**トイレがあれば、現状でも兄弟姉妹児は使用できる。**個人的な希望としては、モノレールがほしい。愛好家がいることから、人集めの目玉にもなる。

藤澤：トイレをつくり、場所の整備を整えるなど、**高畑の質を上げる**という方向性が一つ、もしくは、**数カ所の同じ環境の里山を高畑のような場所にする**、という方向性がある。

岩間：レスパイトの実施が可能なのは、村のさまざまな施設を使わせてもらえるから。建物内実施なら伝承館、森に行くなら高畑、という形で活用できる。高畑以外の森もあっていい。

宇都：昔の高畑のお話を、皆さんと一緒に歩いて聞くのもいい。

中村：当初は、木を伐採して、山がきれいになればいいな、という希望を持っていただけにすぎない。しかし、現在は、地域または遠方の人たちが山に行き、リフレッシュできることが焦点となっている。**つくった広い道にサクラやモミジなど四季折々の木を植えるのはどうだろうか。**山の頂上まで行けるようになると、**美しい景色も楽しむことができる。**

宇都：今日作業した箇所をさらに歩きやすく、皆で作業をするといい。人が歩くようになれば、多くの人々に認知され、楽しんでもらえる。**ハンモック**をつりさげてもいい。

橋本(定)：3,000円くらいで宿泊できる施設が近隣にある。その**宿泊施設を活用して、企業研修や健康志向の人々の受け入れも可能だ。**

宇都：新たに箱ものをつくらず、現存するもので実施していくのがいい。

中村：**現在轍になっている遠回りの道**を整備してもらおうと嬉しい。

米山：**立川へ繋がる道**ができるといい。歩くにはいいコースになる。

宇野：**トレッキングコース**もあるといい。

中村：**景色をアピール**したい。

宇都：**上原先生が行う作業療法のような実施ができる指導者を育てたい。**そのための**トレーニング用の山**とすれば、整備も同時にできる。そこで巣立った人たちは、村内やさまざまなところで活躍することができる。これが実現できれば、いいモデルとなり、村の売りにもできる。ただし、ある程度整備されている必要がある。

和栗：障がい者優先調達推進法が数年前にでき、ちくほつくる製造としてクワ茶販売が可能である。姥捨サービスエリアから販売商品の問い合わせがあった。**クワ茶販売を筑北村社会福祉協議会製造として全面的に売り出すことができる。**ここから運営費ができるといい。

宇都：山野草の話ができる方がいるといい。さまざまな山の知識をもつ人も育てることもしたい。

滝澤：ちくほつくるメンバーが柳沢林業の方々と作業すると、彼らの表情が豊かになる。高畑での作業は、森に入るだけでなく出会いの場・接点の場となっている。粗野な考えだが、「男女の出会いの場」としてみたらどうか。森林整備の作業を通して結婚まで繋がれば、人口増加にもつながるのでは。

また、**林業セミナーの視察場所**の一つになることも考えられる。

高村：小学生も使用できるようにするといいいのでは。

中村：以前は、小学生が山や川に頻繁に来ていた。しかし、小学校が合併し、遠くなってしまった。遠方から来るかどうかは疑問だ。

岩間：受け入れ態勢さえできれば、小学生も来ると思う。筑北村でレスパイトを始めたきっかけも、受け入れ態勢があったからだ。ごはんを食べる場所、遊ぶ場所、指導者の存在が分かっているれば、来るだろう。

原：日本全国に山はあるが、入りやすい山は少ない。浜松や東京の学校から問い合わせがきた。ここで受け入れ環境を整えれば、あちこちから依頼がくると思う。それがきっかけで、地元住民にこの取組に気づいてもらえることもある。

若林：キノコ栽培の技術が進んでいる。簡単に栽培できるのは、シメジである。高畑の山では、**キノコ栽培の可能性**がある。現在、シイタケ栽培用原木を切っている。原木を出し、山を整備することで、シイタケの自然栽培の可能性もある。来る人もしいたけ採取の楽しみができる。もしくは、シイタケを販売するなら姥捨サービスエリアで販売し、高畑を出会いの場にするならシイタケをバーベキューで使用することができる。

新海：薬草やシイタケ栽培、知識伝承、小学校との連携、村長による視察、セミナー研修へのピーアール、受け入れ態勢の構築、障がい児の家族の招待、他施設の取組(例：朝散歩)との連携、ちくほつくるメンバーの参加、出会いの場としての活用などについての提案が出た。さまざまな人が関わるようなプログラムができ、且つ、森林療法を自分たちで実施し、企業研修などを受け入れていけるといい。最終的に、リピーターができるような山にしたい、と提案が出た。

できることから実施していくといい。ただし、トイレ設置と受け入れ態勢の準備、モノの移動は経費が掛かることだから、注意して実施してほしい。

第七回 協働定例会 議事メモ

1. 日時	2016年12月26日(月) 15:00~17:00
2. 場所	麻績村あかり
3. 参加者	<p>1.東条高畑及び周辺里山森林整備協議会①橋本定治(会長)、②米山豊(副会長)、③橋本正義(副会長)、④中村嘉孝(会計)、⑤橋本逸士(事務局)</p> <p>2.里山保全再生ネットワーク 3.親子はねやすめ ⑥岩間敏彦(2代表理事/3理事)</p> <p>3.Re Forest Camp (信州ちくほく) ⑦石田武</p> <p>3.筑北村社会福祉協議会 (ちくほく) ⑧和栗剛(施設長)、⑨滝沢正也(主任)</p> <p>4.柳沢林業 ⑩原薫(代表取締役)、⑪大瀧秀明(常務取締役)、⑫藤澤良太(事務局)</p> <p>5.筑北村総務課 ⑬宇都省吾(主事)</p> <p>(敬称略、以上13名)</p>
4. 議事	<p>1. 木馬試作について (報告者：岩間氏)</p> <p>ヒアリングは完了。</p> <p>今のままでいけそう。デザイナーがOKを出してくれるか、タイナカさんが、仲介してくれているので、OKであればそのままのデザインでだせる。もしダメな場合でも、木馬ではなく、ソリのようなものでもよいかも。</p> <p style="color: red;">★いずれにしても、1月中に報告書の形で事務局へ提出することとした。</p> <p>2. バイオトイレについて (報告者：石田氏)</p> <p>1/12,13頃、水源調査のレポートが完成する。</p> <p style="color: red;">★発注書を至急送付のこと。(事務局より)</p> <p>バイオトイレは、富士山での国も関わった試験で優秀な成績を収めたもの。自転車タイプ。前後20回ずつ漕げばOK。子供の力でも回せる。中に入れるものは、おがくずだけでよい。(年2、3回の入れ替え)</p> <p>使用後のおがくずは、肥やしとして山に散布でOK。匂いはない。</p> <p>トイレの建屋は、別途必要。便の分解速度をあげるには、屋根にソーラーをつけて、日中暖めるという方法もある。</p> <p>小便器は、そのまま外へ垂れ流す形。大便だけ。</p> <p style="color: red;">見積り依頼中、送料込みで金額を確認している。</p> <p>水源は、昔水が出ていたところの沢。断層が入っている。あの付近。あとは、どのくらいの深さなのか。電源が無いので、使用時にポンプで汲み上げる程度で考えればよいのでは。</p> <p>3. リーフレットについて (担当者：岩間氏)</p> <p>いきさつ、メンバー紹介、地図(場所)、今後の展開、など盛り込みたい。</p> <p>A4の2つ折り(裏表にして、計4ページ)ではどうか、という提案。</p> <p style="color: red;">★事務局から、ポンチ絵(原案)を送る旨連絡。1月中に着手</p> <p>4. 里山の現況調査</p> <p style="color: red;">★香山氏からまだ提出ないので、事務局が連絡とって1月中に検収予定。</p> <p>5. 今後の展開(優先順位付け)(司会：藤澤)</p> <p>皆さんからの提案内容について、3つのポイントで優先順位づけを行った。</p>

森林療法リードマン?というものと、村の小学校への働きかけ、クワ茶販売、特用林産(キノコ栽培)あたりが面白いし、具体的な方向性になりそうではないかと考えている。

【意見いろいろ】

◆森林療法リードマンについて・・・カタカナではなく、もっと親しみやすい名前が良い。案内人など。療法という言葉も、「療法」だけに焦点あたると微妙かも。ソフトな感じの名前がいい。信濃町では、町独自の森林療法的な立場の人間がいる。筑北村のお墨付きもつつつ良い取り組み、名前にしたい。

◆村の小学校への働きかけ・・・フジサワ先生は保育園の発達障害児のご担当をされている。森の保育園づくり、実績作りとして高畑の話には乗って来られるかもしれない。フカサワ先生は、筑北村東条田屋の方(小学校教諭)。小学校は、意外と硬い。授業数が少なくPTAからの意見もあって、課外授業など、カリキュラムになかなか入れる余裕がないことがままある。わくわく子ども倶楽部が1番の近道かも。年に一度、夏の間募集がある。きっかけとしては、良いかも。教育委員会から学校長に話を通す必要がある。

★やまぼうし自然学校・・・菅平を中心に活動。都会(都市部)の生徒を林間学校などで招待・受入れを行っている団体。まだ話は未知数だけど、コラボレーションできるかもしれない。

6. 継続活動とするための選択肢(司会:藤澤)

環境省加速化事業(本事業)の継続を目指すとともに、別事業の応募も並行して吟味してはどうかと思っている。

【意見いろいろ】

◆長野県 地域発 元気づくり支援金・・・募集〆切が2月1日であるが、村役場を通すとそれより前に提出資料を揃えて置いた方が良い。村と相談して、資料をまとめて、2月1日までに県へ提出という形。

◆個別相談会は1/12,13,16,17,18に行っている模様。

◆元気づくり支援金は、3年間継続で、途中でお金が出るのもメリット。

以上、各々抜かりなく、担当の役割を進めることで、閉会となった。

5.次回

2016年2月7日(火) 13:30~15:00 @竹之下公民館

第八回 協働定例会 議事メモ

1. 日時	2017年2月7日(火) 13:30～15:00
2. 場所	筑北村東条 竹ノ下公民館
3. 参加者	1.東条高畑及び周辺里山森林整備協議会①橋本定治(会長)、②米山豊(副会長)、③橋本逸士(事務局) 2.里山保全再生ネットワーク 3.親子はねやすめ ④岩間敏彦(2代表理事/3理事) 3.Re Forest Camp (信州ちくほく) ⑤石田武 4.筑北村社会福祉協議会 (ちくほくくる) ⑥滝沢正也(主任) 5.柳沢林業 ⑦原薫(代表取締役)、⑧藤澤良太(事務局) (敬称略、以上8名)
4. 議事	<p>1. 関係会合の報告</p> <p>■1/20 マルチステークホルダーダイアログの報告 (参加者：宇都、原、藤澤)</p> <p>★県内外の協働取組を行っているメンバーが集まり、意見交換を行った旨、報告した。筑北の本事業について、参加者からの関心は高く、質問や好意的な感想も多かった。行政との連携という面で、苦労されている団体がままあったのが、印象的。筑北は、核となる人材がいた影響で、協力姿勢が徐々に出来ていった点、恵まれていたかもと、改めて考えさせられた。と報告。</p> <p>■2/3 第2回連絡会の報告 (参加者：和栗、原、藤澤)</p> <p>★審査員から、概ね好意的な評価を得た旨、報告。 審査員からは、メンバーが変化していった経緯が詳細に知りたい、という言葉があった。「やってみるか」とか、良い意味で気になるフレーズが多かったという。</p> <p>★四日市市の方では、もともとの団体がかなりガッツリ固まっているので、有用感、活躍の場、プライド(自負)などがキーワードになっているようだった。審査員からの「それぞれの領域で出来ること、発見して、見極める」や、「協働は、1つの目標に1丸となることが目的ではない」(きれいに見せる必要はない)という言葉が印象的であった。</p> <p>2. 進捗状況の確認・共有</p> <p>(1) 周知広報リーフレットの製作状況 (暫定版)</p> <p>⇒メンバー内で、暫定版のリーフレットを共有した。</p> <p>★高齢者が多いので、字を大きくしてほしいという意見があった。</p> <p>★印刷後の設置場所としては、役場、村内施設(とくら等)がどうか、という意見が挙がった。配布先としては、同様の里山活動をしている団体や、フォーラムの参加者などが良いという意見が挙がった。</p> <p>★その他、本事業のHPもほしくなったという意見。パンフがあれば、名刺代わりに使える、といった意見が挙がった。</p> <p>(2) 木馬試作レポート</p> <p>⇒既に、ヒアリング調査は実施済み、岩間氏からのレポート待ち段階。</p> <p>★実際に利用者が木馬に乗っている様子がみてみたい、自分も乗りたい、という意見が挙がった。実際に施設に置ければ、追跡調査(使ってみての評価・分析)もできる、という意見が挙がった。</p> <p>★障害の程度によって、合う合わないがあるので、木馬以外も種類増やせれば現場の要望に応じられて良いかも、という意見が挙がった。 障害の程度もちろんあるが、現場は思い切って遊ばせたりするので、木馬だけで</p>

も十分OKという意見もあった。

★現場を見てみると、触覚（振動）・聴覚（音の刺激）に関するものが、評判が良いとのことであった。

(3) 水源調査レポート（完成済み）⇒ 共有

⇒長野温泉地質研究所が実施し、レポートが完成した。石田氏から詳細の報告があった。

★調査手法としては、地震の関係で「断層」を発見する技術として、発達した技術（放射線測定）を用いた。断層は、地下水の通り道になる。

結果としては、調査地（昔の湧水地・・・シンドウさんのしぼり水）を中心に直径200～300mの範囲に断層があり、水源があることが確認できた。

★今回の初期調査以上の情報（例えば、水が何リットル出るか、地下何m掘削すれば、水がでてくるかなど）を知るためには、詳細な再調査が必要ということであった。予測では、水源の深さは地下30m以内だろう（山裾なので、そんなに深くないだろう）とのこと。30mあれば、1週間で掘れるとのこと。

★以下、参加者意見。

- ・この先、道や活動スペースとの兼ね合いで決めていければよい。
- ・井戸を掘る費用、詳細な水源を確定する調査費と比べて、今ある湧水をポリタンクなどにためて運ぶ手間暇と、どっちが良いか。なるべくお金をかけない方法が良いのでは。水質調査の方に頭を切り替えた方がよいかも。御嶽山では、登山者に運べる範囲でペットボトルで水を山に上げることを協力依頼し、少しずつ山の上に水を運んだとのこと。

(4) 里山現況調査レポート（完成済み）⇒ 共有

⇒香山氏からレポートが届いた。概要について、メンバーに回覧して、共有した。以下、概要と、参加者意見。

★「最も基本となる動かせない要素である自然条件、歴史的な条件から、順番に基礎情報を収集、現地を歩くことで全体像から個別課題を抽出するという手法を採用」という点が、キーワードと感じられる。

「耕作放棄地の森林化と放棄という事情から、いわゆる定型的な目標林景の設定はあまり意味を持たないと判断し、それぞれのポイントになる場所ごとの樹木や地形の状況から、将来の姿を描きやすいような素材を提供するように検討」とあるように、里山の森林といっても、その表情は1つではないため、場所ごとの特性を見極める＝地図をつくるのがポイントである。★できれば、香山氏から住民（山林所有者）に直接説明する機会を設けられれば、という案がでた。★高畑・竹ノ下だけではなく、「東条」全体へ周知・理解促進もできればしたい、という案がでた

3. 予算関係について

実費計上分と、それ以外（人件費積み上げ）について、現況を共有した。

実際の関係団体の人件費支払いは、4月中旬以降になるだろうとのこと。

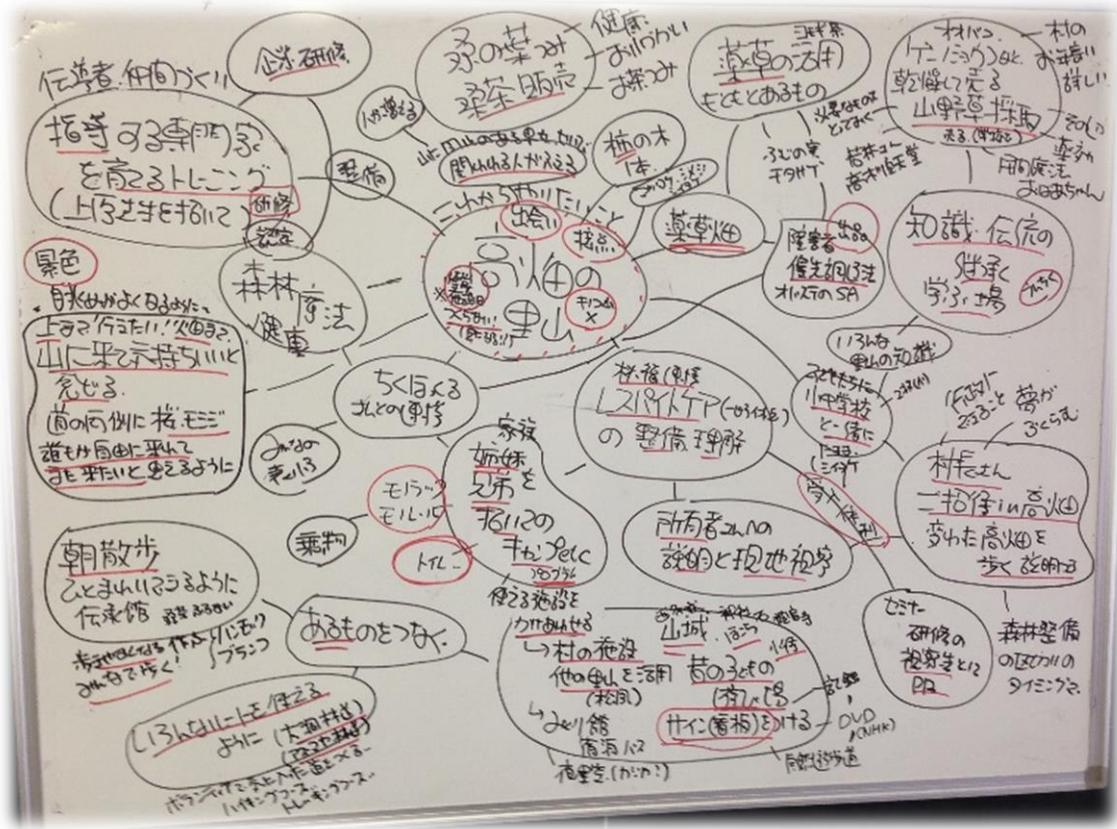
4. 今後のスケジュールについて

成果報告に向けて、2/18（東京にて）合同報告会、2/24 成果報告書（案）の作成を進

	<p>める旨、共有した。</p> <p>5. 継続事業への応募や、その他事業の検討について</p> <p>★環境省事業（本事業）は、H29 年度も継続して実施される旨、事務局より報告した。前回同様であれば、3月末応募締切、5月採択可否がわかる、スケジュールと予想される。</p> <p>★元気づくり支援金は、検討を進めたが、事業主体の選定の段階で、費用負担（4分の1）を賄えるか否かという点で、ちくほくくる・役場ともに応募を断念した。</p> <p>☆以下、参加者意見。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最終的に住民が中心の取り組み。そのルールづくりの意味で、団体が別に必要かもしれない。株式会社でもなく、愛林会・東条～森林整備協議会でもなく、現協働メンバーで構成される任意団体を立ち上げるのが、体制としては望ましいかもしれない。 ・もし新規団体をつくるのであれば、地権者への説明が必要。団体が新しくなったら、新しい契約・同意が必要。 ・今のメンバー以外の参加者も参加できる方式にしたい。 ・団体参加、個人参加、2つ枠を作ればよい ・地域おこし協力隊や、インターン生を受け入れて、技術習得・地域体験と事務局補佐をセットで担う人材を活かすという手段もある。 ・規約、体制（構成図）、会計が確立すれば可能。 ・環境省事業への応募までに団体設立できるか、やってみてもよいかも。 ・WAM という福祉分野の地域連携の助成金がある。 ・宝くじの助成金は、区・常会・市町村単位でないと応募不可。
5.次回	<p>未定 ※個別打合せ継続</p> <p>（次回全体会議のタイミングとしては・・・）</p> <p>① 地域団体の設立（案）ができれば、協議の為、招集</p> <p>② 環境省事業の応募（案）ができれば、協議の為、招集</p>

以上

■第6回 会議板書 (ブレインストーミング)



■第7回 会議 「前回挙がったアイデアの整理」

3. 前回挙がったアイデアの整理	
<p>① 村長による現場視察 (実施済み) 12/22 (木) 10:00~12:00</p>	<p>⑥ 村の小学校への働きかけ 時間はかかるが、着手可能。計画次第。</p>
<p>② 森林療法リードマン 研修 (年5,6回?) 上原先生と要相談。費用見積り等の必要あり</p>	<p>⑦ レスパイト受入れ体制の構築 岩間氏・石田氏と要相談。計画次第。</p>
<p>③ 自然遊歩道づくり (複数コース) 時間はかかるが、着手可能。計画次第。</p>	<p>⑧ 高畑の風景づくり</p>
<p>④ クワの茶葉販売 時間はかかるが、着手可能。計画次第。</p>	<p>⑨ 季節の木の植林</p>
<p>⑤ 特用林産 (キノコ栽培等) 時間はかかるが、着手可能。計画次第。</p>	<p>⑩ 薬草・野草の村作り</p>
	<p>⑪ トイレの設置</p>
	<p>⑫ 出会うの場として</p>
	<p>⑬ 林業セミナーなどでの現地視察地としての可能性</p>

優先順位づけ

- 基準
1. 経費が掛からない (工夫次第でできること)
 2. 時間が掛からない (キーマン、先行事例の存在)
 3. 成果が目に見える (そして、地域全体に還元できる)

1. 森林療法リーダーマン 研修

キーマン「上原先生」の存在感。納得感。
知識・経験豊富。この事業におけるすべての
活動の柱になり得る。可能性の拡大。

2. 村の小学校への働きかけ

キーマン「藤沢先生」「やまぼうし自然学校」の方。
子どもとの接点。活動普及のきっかけ。木工教室
朝さんぼとのコラボもできるかも？

3. クワの茶葉販売

茶積み、製品化に至るには、研究が必要だが、販売⇒
売上という成果が可視化しやすい。ちくほくくるとも
協働で行えそう。山の恵みとしてPRしやすい。

4. 特用林産 (キノコ栽培等)

ノウハウが無いので、製造・販売に至るには研究が必
要だが、同じく販売⇒売上という成果が可視化しやす
い。山の恵みとしてPRしやすい。

※薪・炭の販売・流通網も視野に入れて

里山フォーラム アンケート集計

回答者	21名	参加者	39名
回答率	54%	(スタッフ24名、一般19名) (うち途中退席4名)	

1. 今回の取り組みについて理解いただけましたか

よく理解した	12	60%	【コメント】 もっと知りたい。現地に直接行って目で確認できた。大勢の人の協力・善意があったことを知った。丁寧に説明してもらえた。直接聞かないと理解できないもの実感！！
理解した	8	40%	
どちらでもない			
あまり理解できなかった			
理解できなかった			
合計	20		

2. 今回の取り組みについて、どのように感じましたか

とても良い	16	76%	現地に行けて良かった。社会に役に立つ。荒廃した山に光が。取り組みが皆に知ってもらえた。切り口の面白い事業だと思った。森林の新しい活用法としてとても新鮮だった。一般者がもっと多ければ良いですね。
良い	5	24%	
どちらでもない			
あまり良くない			
良くない			
合計	21		

3. 今回の取り組みをより良くするために何が必要と感じましたか。

アイデア・ご提案をお聞かせください。

<ul style="list-style-type: none"> ・幅広い人々への PR、広報 ・いろいろな 人を巻き込む ・関係者の日頃のコミュニケーション（定期的な） ・お金の流れをよく必要もあると考える 森林療法などの参加者も森林整備費を払うのが良いと思うし、障害者団体が利用するときも何かしら経営がまわるように・・・と思います。整備の段階を障害者も手伝っていくなどわずかな人手として協力できたらよいと思う。 ・ 宣伝して、協力者をふやすこと ・ 1人1人の理解を得られるひが増すことをしてもらおう。 ・ 行政職員や、村民の理解、住人の協力 ・ 地域住民の意向を十分に反映する事 	
--	--

4. 本日の企画「里山フォーラム」はいかがでしたか。

とても良い	11	55%	ぜひモデル里山になれば、いいと思いました。体験、講話ともに充実していました。
良い	8	40%	
ふつう（どちらでもない）	1	5%	
あまり良くない			
良くない			
合計	20		

5. 香山氏の講演はいかがでしたか			
とても良い	9	47%	話し方が素晴らしい。客観的評価の仕方を教えてもらった。こういった活動をされているのか分かった。もう少しゆっくりお話を聞いてみたかった。里山・林業のことについて知ることができた。
良い	9	47%	
ふつう（どちらでもない）	1	5%	
あまり良くない			
良くない			
合計	19		

6. 上原先生の講演はいかがでしたか			
とても良い	18	95%	実物を使っての説明が良かった。映像を見ながら説明されたのでわかりやすい。事例が多くてわかりやすかった。森林療法について、効果と可能性を知ることが出来た。ユーモアを交えて大変面白く勉強になりました。
良い	1	5%	
ふつう（どちらでもない）			
あまり良くない			
良くない			
合計	19		

7. 本取組への関心が高まりましたか			
とても高まった	8	44%	将来の姿を早くみたい。協働の重要性。手伝えることがあれば、協力したいです。後の整備を今後どのようにしていくのが課題。
高まった	9	50%	
ふつう	1	6%	
あまり高まらなかった			
高まらなかった			
合計	18		

8. 東条地区の里山がどのような場所になるとよいと思われましたか。

・里山振興の モデル									
・皆が気楽に入れる山									
・人が集まれる場所									
・だれもが活用できる場所に（ちょっと活用しづらい場所なので）									
・人が 出入りできる 豊かな森									
・都市と田舎の人々の混じわりができればと思う。									
・ みんなの いい場									
・地域がどう取り組むかも、今後考える必要がある。									
・皆が 楽しく集まる ところ									
・森林が産業として成り立つほかに、セラピーの場として全国的に有名になること									

9. 今後、本取組に関連する催し当のご案内を送付してもよろしいでしょうか

記入あり	6	29%							
記入なし	15	71%							
合計	21								